に至れり、二女の墓は本堂の東にあり、二僧の墓は北門の傍にあり、又此寺の南に接して靈鑑寺(れいかんじ)あり、寺は禪宗にして後水尾天皇の皇女、靈鑑院尼公の創建に係り、圓城山と號し世々尼宮の住職たりし所たり。

○如意嶽(にょいがだけ) 鹿ケ谷の東方の山を稱す、一に大文字山と云ふ、昔弘法大師の創めたるものにして毎年八月十六日于蘭盆會に送火と稱し火を山腹に點じ大字形に燒き遠くより之を望ましむ、其光分明烜赫にして都下の人々爭ふて之を觀る、其大字初畫の一點のみにても實に五百五十餘尺の長さに亘れりと、山中に樓門の瀧(ろうもんのたき)あり高九丈二尺、昔附近に如意寺の樓門ありたるより名付たりと。

○銀閣寺(ぎんかくじ) 鹿ケ谷の北、淨土寺町にあり、禪宗、慈眼寺と號す、夢想國師の開基にして元足利義政閑居の地なりしを義政の死後、遺命に依て佛寺となし、佛殿に安置せる本尊釋迦牟尼佛は日護上人の作なり、銀閣は二層閣にして上を心空殿と

云ひ、下を潮音閣と云ふ、運慶作の觀世音を安置す、庭園は相阿彌畢生の經營に係り、後方の山を月待山と云ふ、洗月泉と號する飛泉あり、築山には落照岡、銀沙灘向月臺あり橋には分界橋、迎仙橋、濯錦橋、臥雲橋等あり石には天柱峯、回鴈峯、北斗石、落星石等あり一樹一石の布置も之を苟且にせず、皆築庭の法、園藝の術に依りたるものとして、深く世の賞讃を博する所たり。

○吉田神社(よしだじんしゃ) 銀閣寺の西、神樂閣の麓にあり、官幣中社、武甕槌神、經津主神、天兒屋根命及姫大神を祀る、貞觀年中藤原山蔭の建立する所なり、此南丘陵に接して**卜部家齋場**(うらべけさいじょう)あり日本全國の神祇三千餘座を勸請せり、神社の近傍學校多し、京都帝國大學(きょうとていこくだいがく)第三高等學校(だいさんこうとうがっこう)京都高等工藝學校(きょうとこうとうこうげいがっこう)**府立第一中學校**(ふりつだいいちちゅうがっこう)帝國大學病院(ていこくだいがくびょういん)等あり、其屋舍いづれも宏壯美麗なるものなり。

○百萬遍（ひやくまんべん）　神樂岡の西北、愛宕郡田中村にあり、長德山知恩寺と稱し淨土宗鎮西派四個本山の一なり、慈覺大師の草創にして當初は天台宗なりしが、法然上人之に住して今の宗旨となりたり、後醍醐天皇の御時、疫病流行せしに當寺の住職善阿上人、一週日の間念佛百萬遍を誦せしに、疫病忽ち止みたるを以て、叡感殊に深く當寺に百萬遍の號を賜ひしなりと云傳ふ、本堂には圓光大師の像を安置し、本堂の傍にある大師堂には慈覺大師作の釋迦牟尼佛を安せり。

○千菜寺（ほしな）　田中村の近傍にあり、光福寺と云ふ、昔豊臣秀吉に多くの干菜を献じたるより此名あり。

○下加茂神社（しもかもじんしや）　愛宕郡下鴨村にあり、官幣大社、玉依姫及び鴨建角見命を祀る、延喜式の大社にして欽明天皇の御宇創起し、天武天皇、白鳳五年に初めて社殿を造營せり、後桓武天皇遷都以來、山城國の土産神として歷朝の崇敬厚く、屢々

行幸の事あり、社殿樓閣頗る壯麗を極め、古代の式を存せり、殊に神殿の前は一帶の深林にして、巨樹蓊鬱として、天を掩ひ頗る幽邃清深を極む、之を糺の森と名く、本社の例祭は毎年五月十五日行はれ加茂川なる葵橋を渡り、上加茂神社へ神幸ありこれを葵祭と稱し、京都祭禮中最も古雅優美なるものとす。

○上加茂神社（かみかもじんしや）　下加茂神社の北方、上鴨村にあり官幣大社、別雷神を祀る、下加茂神社と同く桓武天皇遷都以前に鎮座せし古祠にして、今の殿舍は寛永五年の修造なり、境内廣濶、櫻樹多く御手洗川の清流神前を繞る、例祭は下加茂神社と同日にして、古來勅使の參向あり、最も嚴肅なる祭典を擧げらるゝと云ふ。

○詩仙堂（しせんだう）　田中村の東北なる一乘寺村にあり、石川丈山の遺蹟にして堂の一隅には丈山の嘗て撰みし漢、晋、唐、宋の詩人三十六人の畫像を掲げ、畫は狩野尚信の筆に係り、丈山一々之に詩を題せり古色蒼然明かに讀むを得ずと云ふ。

○修學院離宮（しうがくいんりきう）　修學院村にあり、御水尾天皇造營の離宮にして、往時は修學院と稱する佛刹ありたりと云ふ、此地櫻楓の樹多く枝を交へて蓊鬱たり、林泉を分つて二とおし、下御茶屋には嚮月庵、藏六庵等あり上御茶屋には鄰雲亭、止々齋、窮邃軒等あり浴龍池には奇樹怪石多く、其風景の絶佳なる、多く近傍に其比を見ざる所たり、赤山神社（あかやまじんしや）は此附近にあり、慈覺大師の勸請に係り天台守護の神なりと云へり。

○比叡山（ひえいざん）　京都市の東北に聳へ、山城近江二國に跨る高峯なり、山上に延曆寺あり、桓武天皇奠都の時、僧最澄に勅して伽藍を建設せしめられ、以て帝都の鎮護とおさしめ給ふ所、根本中堂、講堂、戒壇堂、相輪塔等今尚古昔の建築を存せり、峯の絶頂を四明嶽と云ふ、眺望好く近江、山城の湖山一眸に入る、京都より此山に登るに三路あり、一は白川村よりし、一は修學院村よりし、一は八瀬村よりす

るあり、修學院より登るもの道最も峻にして、洛東白川村より登るもの、行程稍遠しと雖も平易あり、今の寺の所在近江國に屬せるを以て、詳きは東海道線馬場驛の部にあり。

○八瀬の里（やせのさと）　叡山の西麓より北、高野川に沿ふて上る所にあり傳へ云ふ昔、天武天皇大友皇子と戰ひ敗れて此地に走り給ひし時、天皇の御脊に皇子の矢中り、此地に於て其矢傷を癒させ給ひし所なるを以て、矢脊の地と稱すと、八瀬より以北大里に至る間は極めて人情素朴なる所にして、別けて女子に至つては一種特別の風俗を存し女子は何物を携ふるにも多くこれを手に持つことをせず、頭に載き歩行するなり、現に今も紺の衣服に白き脚袢を裝ふて、日々市中に出で物を賣行く樣は之を他に見る能はず、一種の風味あるものと云ふべきなり。

○融通寺（ゆうづうじ）　大原來迎院村にあり、良忍上人の開基に係り、本尊湛慶作、阿彌

陀佛なり、本堂の傍に獅子石あり昔、上人此寺にて文珠の秘法を修せし時、堂側の石化して獅子となりたるなりと。

○來迎院（らいこうゐん）　融通寺の東にあり、一名大原寺と云ふ良忍上人の開基にして元叡山西塔の北谷に屬し、天台宗聲明音律宗、即ち融通念佛宗の本山なり、本尊藥師佛とす、寺の前にある橋を羅漢橋と云ふ昔、此橋上に十六羅漢示現せしと云ふ、又此寺の東方四五丁の所に音無瀧あり、落下六丈、幅二間二尺を有し其水翠巖に沿ひて徐々に落ち瀧音を爲さゞるより名付く、瀑下水岐れて二流となり南に向ふものを呂川と云ひ、北に流るゝを律川と稱せり、蓋し漢土魚山の呂律川に像りたるものなりと。

○圓融院（ゑんゆうゐん）　呂川の北にあり、三千院と云ふ、元天台座主の住せし所にして梶井宮又梨本坊と云へり、此寺初め貞觀二年承雲和尚の開基せし所に係り、江州東坂

本にありしが、中世此所に移轉せしものなり、境内の一院極樂院は又惠心院とも稱し、惠心僧都作の阿彌陀、觀音、勢至の三像を安置し、佛壇其他裝飾は同僧都の所作なりと。

○勝林院（しようりんゐん）　圓融院の北にあり、長和年間寂源法師の開基に係り、本尊を俗に證據の阿彌陀佛と稱す、往昔、法然上人此佛前に於て山門の座主顯眞法印其他と一向專修の問答を爲したるに、上人の議論する時は阿彌陀光明を放ちたりと云ふ、世に之を大原問答と云ひ、顯眞初め一般の學徒等皆上人の智德に服せりと、寺の門前右の傍に寶光坊（ぢくわう）と云へるあり、此所には後鳥羽天皇（ごとばてんのう）順德天皇（じゆんとくてんのう）御陵あり此は遺詔に依り隱岐、佐渡の行宮より御遺骨を此所に移し葬りしものなり。

○寂光院（じやくくわうゐん）　大原草生村にあり、弘法大師の開基にして、本尊地藏菩薩は聖

徳太子の作なり、文治の頃建禮門院落飾して此に閑居し給ひしより、爾後尼寺となり東堂には門院及び阿波内侍の像を安置す、門院の陵墓は院の後翠黛山にあり朧の清水（おぼろの）其附近にあり。

○江文社（ねぶみの）　大原井出村にあり、宇賀魂神を祀り太原郷の産土神なり、地峻にして山上に三個の穴あり、火壺、雨壺、風壺と名く土人雨を乞ふ時は雨壺に祈り晴を乞ふ時は火壺に祈るに多く霊験ありと云傳ふ。

○寛相院（じつそうゐん）　八瀬の西なる岩倉村にあり、天台宗、圓融天皇御宇創立、智辨僧正の開基に係り、初め岩藏山大雲寺と云ひしを寛相院義尊再興して今の名に改めたるなり。

○本涌寺（ほんゆうじ）　松崎村の東、山腹にあり、日蓮宗、立本寺僧日生の開基に係り大黒天を祀るを以て名高し、寺の西隣に**妙泉寺**（めうせんじ）あり、是又同宗にして毎年八月十

五、六日両夜村内のもの多数集り題目踊をなし寺の後の山に妙法の點火をなして大文字と同く聖靈會に供す、京都市中より之を望み得べし。

○鞍馬寺（くらまでら）　京都市を距る北三里、鞍馬山の中腹にあり、天台宗に松尾山と號し延暦十六年藤原伊勢人の草創にして本尊、毘沙門天を安置す、今の堂宇は明治四年の再建に係る、全山檜杉の大樹繁茂し、夏尚寒きを覺へしむる上、櫻樹も亦多く花の頃一層美觀を添ゆ、義經の幼時源牛若丸の住せしと云へる**東光坊**（とうくわぼう）の舊跡あり、又西の方貴船に下るの間に**僧正谷**（そうじやだに）あり、牛若丸劍法修行の趾なりと云ふ、毎年一月初寅の日、鞍馬詣りと稱し參詣人多し。

○貴船神社（きぶねじんじや）　鞍馬寺の西にあり、官幣中社、水神罔象女神を祀る、社殿二個に分れ、下の社、奥の社と云ふ相距ること五丁餘、其西に天岩船あり、石を積んで船形をなす、附近に**御手洗川**（みたらしがは）あり、和泉式部の螢を詠せし古跡あり。

○大悲山峰定寺（だいひざんほうていじ）　山城の北境に位し、俗に大布施と稱す、天台宗にして寺は山の中腹にあり、久壽元年平清盛の草創にして願空上人之を開基したりと云ふ、滿山怪岩多く俊寛僧都一族の墓あり、山の東方久多村に接して久多の瀧（たき）あり、一名瀧谷の瀧と稱す、飛瀑二級あり、高各五丈許、幅凡五間を有せり、壯觀多く比類なきものなれども京都を距ること約十里深山幽谷の間にあるを以て人の知るもの少なし。

○岩屋山（いはや）　京都より約五里、出谷村にあり、山腹の寺を金峯寺と云ふ、役行者の創起に係り後、弘法大師來りて不動尊を祀り、一千座の護摩を修せり、山中、飛龍瀧（ひりゅうだき）奥の院（おくのゐん）護摩堂（ごまだう）文字窟（もんじくつ）行者坐禪石（ぎやうじやざぜんせき）等の名跡あり。

○正傳寺（しやうでんじ）　西加茂の山麓にあり禪宗、吉祥山と號し僧東岩の開基なり、境内楓樹多し、背後の山に船形の送火とて毎年八月十六日の夜船形に火を點じて聖靈會の送火をなす風あり。

○今宮神社（いまみやじんじや）　東紫竹大門にあり、素盞嗚尊及び稲田姫命を祀る、此社初め疫神と稱し、船岡山にありしを長保五年今の所に移し今宮神社と號せり、毎年六月例祭を行ひ、近傍の村民異樣の扮裝をなして鉦鼓を鳴らし喧囂連呼して社内を廻るの神事あり。

○大德寺（だいとくじ）　今宮神社と同所にあり、龍寶山と號し、禪宗臨濟派の大本山にして正中元年後醍醐天皇の本願に依り大燈國師妙超の開基する所なり、境内老松多く堂舍を掩ひ幽邃の狀云ふべからず、此寺初めの建物は享德二年火災に罹り、次で又應仁の兵燹に遭ひ全く灰燼に歸したるを文明十一年、一休和尚之を再興し其後寛永十七年皇居の南門を賜はり勅使門を建て、又中門は千利休の作る所となり、漸く寺内の觀を見直し以て今日に至れり、建物の中主なるものは佛殿にして大雄殿と云ひ

南面二重瓦葺にして、此中に本尊釋迦三尊の像を安置し、これに接して法堂、方丈眞珠庵及び孤蓬庵等あり、方丈の前庭は小堀遠州の作る所、眞珠庵は夫の有名なる一休禪師の庵室にして、中に其像を安置し、孤蓬庵は小堀遠州の建つる所、德川家康が加藤清正其他豊臣家の重臣に毒饅頭を喰はしめたる時、茶を點せしと稱する有名の茶碗を藏せり、寺内に細川忠興、織田信長、千利休、藻生氏郷、小早川隆景、片桐且元、豊臣秀長、小堀遠州其他の墳墓あり中に目立たるは五輪の石塔高五尺六寸餘の織田信長にして信長死去の當時秀吉燒香の事蹟は世人已に之を知る所たり

○建勳神社（けんくんしや）大德寺の南にあり、別格官幣社、明治八年の創建にして、織田信長を祀る、後の山を船岡山と稱し、梅樹多く風景頗る佳なり。

○蓮臺寺（れんだいじ）船岡山の西にあり眞言宗、開基は詳かならざれども宇多法皇の創立に係り村上天皇勅額を賜ひし靈刹なるを以て、其由緒の正しく年代の久しきを知るべし、寺中に有名なる彩畫過去現在因果經を藏せり。

○金閣寺（きんかくじ）葛野郡衣笠村にあり、鹿苑寺と號す、足利義滿燕居の所にして、義滿死後、其子義持父の遺命に依り、禪林となし、夢想國師を請じて開祖とおせり林泉は相阿彌の作になりい奇巖怪石を集め、九山八景と稱する特種の風景を現はし園の中央に鏡湖池と名くる池を設け、池に臨んで三層の閣あり、即ち金閣にして下層を法水院と云ひ、南北五間半、東西七間、中央に運慶作、彌陀、觀音、勢至の三尊を安んじ、東壇に夢想國師、西壇に義滿の木像を安置し中層は潮音洞と云ひ、間數下層と同く正面に觀音を、左右に四天王の像を置く、上層は究竟頂と云ひ、方三間四尺七寸、之に方三間の一枚の檜皮を以て天井を張詰めたり、此所は上下左右悉く押すに金箔を以てせり、金閣の稱起る所にして、尙池中の景は一々數へ難し、榊雲廟、巖下門、龍門瀑、鯉魚石、銀河泉、虎溪橋等池畔の名勝存せる上に夕佳亭の

茶室には、南天の床柱、萩の違棚等其名高し、鹿苑寺の本堂は南向にして園の東にあり、内殿の中央には本尊聖觀音、脇士梵天、帝釋の像を安置し其両側には開山夢想、中興文雅、道義人道の像あり、此堂は貞享年中、後水尾法皇の再建し給ふ所、襖の繪は總て狩野探幽の筆とす、庭園林泉の巧妙なると共にすべて屋舍の建築佳麗を極む、金閣寺の北、紙屋川の畔に鏡石あり、石面光澤ありて能く物影を映す又其北一丁許の所に不動石あり、形不動に似たるより名付く共に有名なる奇石なり、尚附近に花山天皇紙屋上陵、三條天皇北山陵、二條天皇香隆寺陵等あり。

○平野神社　北野神社の西北、小北山村にあり官幣大社、今木、久殿、古開、比賣の四神を祀り又別に一社あり縣社と稱し天穗日命を祀る、歴代天皇の崇敬最も厚く、圓融天皇以來屢々聖駕を枉げさせ給ひし事あり、今の社殿は寛永年間

の營繕に係り、降つて明治十四年更に修復を加へ、頗る壯麗を致せり、大祭は毎年四月二日を以て行ふ、境内櫻樹、燕子花、花菖蒲、萩花等多く、毎花季には夥しき遊賞客集る中に、殊に陽春四月は平野の夜櫻と稱し、最も群集雜沓を極む

○立本寺　七本松通仁和寺街道にあり日蓮上人の開基にして日蓮宗の本山なり、法華題目塔日審上人墓等あり。

○等持院　衣笠山の麓等持院村にあり、臨濟宗、足利尊氏の創立、夢窓國師の開基に係り、佛殿に地藏及び歡喜天を安置す、寺中足利歴代將軍の木像を安置す皆束帶佩劍の座像なり、尊氏塔は佛殿の西傍にあり、寺背の山下に義詮の墓あり。

○櫛寺　北野神社の西南數丁、一條通の南側にあり、本名昆陽山地藏院と云ふ、境内有名の椿あるを以て俗に此稱あり、聖武天皇神龜三年僧行基勅を奉じて地藏尊を彫刻し、衣笠山の麓に創建し、後兵燹に罹りしも、足利義滿金閣寺建築の餘

材を以て再建し、降つて豊臣秀吉天正十七年に今の地に移して再建せし所、當寺の椿は其花落ちずして散るを以て散椿と云ふ、文祿の役加藤清正が朝鮮より携へ歸つて豊公に献せしものなりと傳ふ。

東海道線

主要

石部

山科

距離

材を以て再建し、降つて豊臣秀吉天正十七年に今の地に移して再建せし所、當寺の椿は其花落ちずして散るを以て散椿と云ふ、文祿の役加藤清正が朝鮮より携へ歸つて豊公に献ぜしものなりと傳ふ。

東海道線

從 石神 至 山戸 驛驛

東海道線目次

神戸市……一
湊川神社……三
廣駿寺……三
再度山……四
祥福寺……四
福原遊廓……四
湊川公園……五
天王温泉……五
三の宮停車場……五
三の宮神社……六
舊居留地……六
生田神社……六
布引瀧……七
諏訪山……七
六甲山……八
住吉神社……九
忉利天上寺……九
摩耶山……九
十善寺……一〇
岡本梅林……一〇
西の宮町……一〇
西の宮神社……一一
廣田神社……一一
甲山神兎寺……一二
厄神明王……一三
阿保親王墓……一三
長州……一三
近松門左衛門墓……一四
神崎川……一四
吹田町……一五
高濱神社……一五
護國寺……一六
瑞光寺……一六
歌塚……一六
吹田の桃林……一七
茨木町……一七
茨木神社……一八
磯良神社……一八
總持寺……一八
玉川……一八
藤原鎌足塚……一八
三島江神社……一九
繼體天皇御陵……一九
太田神社……一九
酒久良神社……一九
勝尾寺……一九
高槻町……二〇
高槻城跡……二〇

野見神社……二〇
地蔵院……二〇
伊勢寺……二一
伊勢姫の古廟……二一
霊松寺……二一
金龍寺……二三
本照寺……二三
慶瑞寺……二三
普門寺……二三
能因法師の墓……二三
天王山……二四
寶寺……二五
妙喜庵……二五
離宮八幡宮……二六
水無瀬宮……二六
櫻井の里……二六
長岡天満宮……二六
楊谷寺……二七
光明寺……二七
向日神社……二八
長岡宮都……二八
大原野神社……二八
勝持寺……二九
芳峰寺……二九
淳和天皇御陵……二九
乙訓寺……二九
勝龍寺城趾……二九
燃塚……二九
桂川……三〇
伏見稲荷神社……三〇
観修寺……三〇
隨心院……三〇
山科御坊……三〇
醍醐寺……三〇
三寶院……三〇
一言寺……三〇
日野藥師……三〇
安祥寺……三〇
大石良雄の邸宅……三〇
岩屋寺……三〇
醍醐天皇御陵……三〇
朱雀天皇御陵……三〇
天智天皇御陵……三〇
坂上田村麿墓……三〇
平重衡塚……三〇
明智光秀塚……三〇
逢阪山……三〇
關の清水……三〇
蟬丸社……三〇
關之小川……三〇
走井……三〇
大津市……四〇
琵琶湖……四〇
矢橋浦……四〇

唐崎の松……四一
堅田の浮御堂……四一
比良山……四二
三井寺……四二
高觀音……四二
天孫神社……四三
日吉神社……四三
比叡山坂本口……四四
延暦寺……四四
西教寺……四四
來迎寺……四四
坂本城址……四四
高穴穂宮趾……四四
志賀都趾……四四
義仲寺……四四
石山寺……四四
立木觀音……四四
岩間寺……四四
勢田ノ唐橋……四四
粟津ケ原……四五
膳所城址……四五
鹿跳岩……四五
建部神社……四五

東海道線

神戸驛

新橋より三百七十五哩二分
大阪より二十哩三分

○神戸市（かうべし）　我邦五港の一にして、東西二里半、南北一里、地勢南方に海を控へ、小野濱の海濱は和田岬と相對して、一大港灣をなし、舊湊川水路口其間に突出して、神戸兵庫の兩港に分ち、港内水深くして大船巨舶の碇泊に便なり、又北方には摩耶、再度、鷹取等の諸山、墻壁の如く連り、武庫の海岸は其東に、須磨、明石の名勝は其西に隣して、實に海陸とも優勝の地位を占めたるものあり、由來此地は海濱の一寒村に過ぎざりしが、明治維新後初めて貿易港となり、内外商買の相集り來りし爲め、日に月に繁盛を來し、今や戸數八萬、人口三十九萬を算し、一ケ年貿

易輸出入總額二億八千四百八十萬圓の多きに達するに至り、我邦屈指の大都會となれり。

交通は東海、山陽両鐵道の此地に於て接續し、市内を東西に貫通せるものと、及び海上との連絡を取る爲め、小野濱、和田岬其の他に臨港鐵道棧橋の設けたるものあり、又市内には近頃頻々電氣鐵道を布設して、其電車市内を縱横駛走して、其便利の大なる事今更言ふを待たざる所、今試みに市内に於ける電車の停留所及其區域を示せば左の如し。

阪神電氣鐵道　神戸大阪間　十九哩二十六鎖

市内停留場　神戸(加納町)　新生田川

神戸電氣鐵道　春日野道兵庫驛前間　三哩五十七鎖

春日野道(阪神電車乘替)　南本町一丁目　同四丁目　磯上通一丁目

市内停留場　同五丁目　瀧道　生田前　元町一丁目　榮町二丁目

同三丁目　榮町四丁目　宇治川(官鐵三宮驛二丁)　楠公社　有馬道　湊川

永澤町　柳原踏切　兵庫線乘替(官鐵神戸驛二丁)　兵庫驛前

兵庫電氣軌道　兵庫須磨間　三哩五十三鎖

市内及沿道　兵庫(神戸電車乘替)　大開通　長田　西代　板宿　大手

停留場　月見山　須磨寺　須磨

○湊川神社(みなとがはじんしや)　驛より二丁、市内多聞通二丁目にあり、別格官幣社、楠正成の靈を祀る、有名なる碑『嗚呼忠臣楠氏之墓』(あゝちうしんなんしのはか)は表門を入る右手、松樹の間にあり、毎年七月十二日大祭典を執行し、又五月二十五日は公が戰死の當日なるを以て盛大なる祭典を擧ぐ、世の崇敬殊に篤く、來り賽するもの常に絶ゆる期なし。

○廣嚴寺(こうげんじ)　市内楠町七丁目にあり、一名楠寺と稱す、臨濟宗南禪寺派、本

尊薬師如來、建武三年湊川の戰に利あらず正成一族郎黨を率ひて此境内の無爲庵に入り、弟正季等と共に自刃し、香骨芳魂遂に幽冥に歸したり、本殿には後醍醐天皇の寄進に係る正成の甲冑を穿ち、及び衣冠を著けたる二個の木像を安置し、又同公所持の軍扇及び直筆の書簡等を藏せり。

○再度山（ふたゝびやま） 諏訪山の後に聳ゆる山岳にして、海拔千五百餘尺、山上に古刹あり大龍寺と號し古義眞言宗、弘法大師の開基、本尊如意輪觀世音は行基僧正の作、本堂奥の大師堂には弘法大師の像を安し、毎月二十一日の緣日には善男善女の參詣引も切らず其他前面には、赤松則實の據りし城趾あり。

○祥福寺（しやうふくじ） 驛より十五丁、北方山麓奥平野村にあり、臨濟宗妙心寺派、本尊釋迦牟尼佛、境内高燥樹木繁茂風景頗る好し。

○福原遊廓（ふくはらいうかく） 驛より五丁、多聞通八丁目の北、舊湊川堤防の東にあり、明治初年其筋の命に依り、福原町を遊廓地と定め、市内各所の青樓を悉く此所に集めたり。妓樓の數凡そ一百戸、廓中の大通を仲の町と稱し、其他專ら体裁を東京吉原に擬し、夜の神戸の繁昌を此に集めたり。

○湊川公園（みなとがはこうゑん） 楠氏最後の古戰地にして、今は川を埋て坦々たる遊園地を開き劇場、淨瑠璃其他興行物等ありて殷盛を極む、されども兩岸にありし以前の松樹は亭々として色を變せず、今も尙當時を偲ぶ風情あり。

○天王温泉（てんのうおんせん） 驛より約十五丁、湊川の上流湊山にあり、風景好く俗塵を脫せし地なり。

三ノ宮驛

新橋より三百七十四哩二分
大阪より十九哩三分

○三ノ宮停車場（さんのみやていしやぢやう） 神戸三ノ宮町にあり、市の東方にあるを以て此所より

居留地、税關、布引の瀧又は諏訪山等の個所へ往復せんには最も便利の場所たり、殊に近年市の繁榮は追々東方に及ばし來り、此程まで一漁村に過ぎざりし葺合村の如き、市に併合せられて續々之に新市街を設けつゝあるより今や此驛は殆んど市の中樞に當らんとするが如き觀を呈し來り旅舍、運送店其他飲食物、雜貨店等軒を並べ、此附近最も殷賑の巷衢となれり。

○三ノ宮神社（さんのみや）　驛の南、神戸市元町通の東端、元居留地と相接する所にあり元一箇の村社にして、境内甚だ廣からざれど、附近商家多く、毎夕露肆の出るありて、夜間殊に熱鬧の場所なりとす。

○生田神社（いくたじんしや）　驛より東十五丁、三宮驛より同く五丁、神戸市中山手通一丁目にあり、官幣中社、天照大神の皇妹、稚日女尊を祀る、神功皇后三韓より凱旋あり し後、生田川の上流なる砂山を相し、親ら勸請し給ひしものなりと云ふ、壽永元

曆の戰ひには、平家の陣所となり、湊川の戰ひには新田足利の交戰地となり、爾來幾多の霜星を經て、今は社域も漸く縮少したれど、社後に樹木鬱蒼したる生田の森ありて、纔に昔時の俤を存し、尚境内に神功皇后釣竿の竹、梶原景季箙の梅、梶原の井、敦盛の萩等見るべきものあり、大祭は例年四月十五、十六日にして頗る賑ひを告ぐ。

○布引瀧（ぬのびきのたき）　生田神社の東北約十五丁、加納町の砂山にあり、源を武庫山中に發し、末は生田川となり、瀧は雌雄の二流に分れ雌瀧の高七十餘間、雄瀧は是より約三丁を登りたる所にあり、俱に削然たる岩石を傳はり落つ、其狀恰も一帶の白布を懸けたるが如し、山上に貯水池あり、神戸市一部の飲料水を供給せり。

○諏訪山（すはやま）　驛より十五丁、市の正北に位し、山を闢き、遊園地となし、市内第一の高所として、展望最も好く、港内の船艦、市街の屋宇等、一々指顧の中にあ

り、山腹に諏訪大明神の祠あり、多數の朱華表を以て異彩を放つ、諏訪山の名は蓋し是より來れるなるべし、附近に諏訪山温泉(すはやまおんせん)あり其名著はる。

住吉驛

新橋より三百六十九哩四分
大阪より十四哩五分

○六甲山(ろくかふさん) 一に武庫山と稱し武庫郡の正北に屹立する山岳にして、高き所海拔三千尺、此山全体花崗石より成立ち、樹木少なく甚だ景趣に富まずと雖も、大阪神戸間の海邊に聳へ眺望最も展開して見渡す限り景色を瞰め得らるゝを以て、夏季の如き此地方より態々來り登攀するものあり、又此地方よりして山の後有馬町へ通ずる街道あり、西の宮、住吉両方面よりするものいづれも六甲越と稱する中に、住吉の方は坂路稍急なれども、道程三哩にして達し此間風景に富む所あり、近頃又山巓に外人の別墅を設けこれに居住せるものあり大に山中の趣きを變へたり、六甲山

に就ての傳説に、往昔神功皇后三韓より凱陣の時、仲哀天皇の先后大仲姫の子麛坂、忍熊の二王相謀り、皇后を討んとせし時、武内宿彌先づ麛坂王と五人の隨臣とを誅し、其兜首六級を此山に埋めしより六甲山の名起りしと。

○住吉神社(すみよしじんしや) 驛の西隣にあり、鄉社、表筒男、中筒男、底筒男命及び神功皇后を祀る、往時神功皇后、三韓より凱旋ありし時、三筒男命を勸請せられたるものにして、皇后の靈は其後に於て配祀したるものなり、此殿の後に釣竿竹あり、皇后長門の豊浦より此地に上陸し、携ふ所の釣竿を地上に挿し給ふに後、枝葉を生じ今に至つて尚枯死せずと云ふ。

○忉利天上寺(とりてんぜうじ) 驛より約一里半、西灘村摩耶嶺にあり、此の山六甲山脈中の一峻嶺にして海拔二千三百尺、老樹鬱蒼として山を蔽ひ、大阪灣十里餘の海上より指點し得べし、此寺古義眞言宗にして摩耶山と號し、天武天皇の朝、印度の僧、

法道仙人の草創に係る古刹なり。本堂は十一面觀世音を安置し、境内に摩耶夫人堂開山塔あり毎年夏時に至れば内外人の茲に暑を避くるもの多く、其外遠近より參詣するもの多し。

○十善寺（じゅうぜんじ）　驛より二十五丁、六甲村字高羽にあり、一王山と號し臨濟宗永源寺派の一派なり、天喜五年の創建にして、信覺大師を開山とす、永祿年間兵燹に罹り堂塔悉く烏有に歸したるを其後寶曆十一年呑海和尚、之を再建し稍舊觀に復することを得たり、境内廣濶にして楓樹多く、晩秋紅錦を綴るの交に至れば、杖を曳くもの少からず。

○岡本梅林（おかもとばいりん）　驛より約十五丁、本山村字岡本にあり、前に田圃を控へ、後に山を負ひ、廣さ約二十町歩、一萬株の梅樹は、紅白相交り香雲芳雪山を埋め、家を沒し清香馥郁、鼻を撲つ、而して地阪神の中央にあるを以て、花信一たび到れば

雅となく俗となく來り遊びて却々の雜踏を極めり。

西ノ宮驛

新橋より三百六十四哩一分
大阪より九哩二分

○西ノ宮町（にしのみやまち）　攝津國武庫郡の内にあり、戸數四千三百、人口一萬八千三百を有し、戎神社と古來清酒の釀造地とを以て其名全國に聞へり、此地大阪神戸の中央に當り海陸運輸の便ある上、近頃此地電車の開通せし爲め大に發展して商工業の繁盛を來せり、生産物の中主なるものは清酒、これに次で綿糸綿布等なり。

○西ノ宮神社（にしのみやじんしゃ）　驛より西十三丁、西ノ宮字宮の森にあり、蛭子命を祀る詳しきは阪神電車の部にあり

○廣田神社（ひろたじんしゃ）　驛より十五丁、武庫郡大社村字廣田にあり、官幣大社天照皇大神を祀る、當社は延喜式内の古社にして、神功皇后三韓を征し攝州の北岸、廣田

郷に凱旋せられたる時、勸請せしものなりと、境内廣濶、老松蔚然として幽邃を極め近年更に神苑を擴張し、櫻樹及び躑躅等を增殖せし爲め、花時の風光一入好く遠近より來觀するもの多し。

○甲山神兜寺（かぶとやましんじゅじ）　驛より一里、甲東村字神兜の一端甲山の山腹にあり、山形兜に似たるを以て名くる所なり、古義眞言宗、摩尼山と號し弘法大師作の如意輪觀世音を本尊とし、仁王門に掲げたる武庫山の額は、仁和寺宮法親王の親筆なり、天長年間、淳和天皇の皇妃、其宮女を具して當山に遁れ、一堂宇を建立し給へり、是れ即ち當寺の興起にして、當時如意輪の呪を唱へられたるより、神兜寺又は感應寺の號ありと云ふ、境内頗る眺望に富み、武庫の浦、大阪市街を脚下に望み、岩山麓には四國八十八ヶ所の靈塲に擬したる石佛を安置せり、毎月二十一日參詣人多し。

○厄神明王（やくじんめうわう）　驛より約三十丁、甲東村字門戸にあり東光寺（とうくわうじ）と云ふ、日に

本厄除三體の一にして、人皇五十二代嵯峨天皇寶壽四十一歳に達せられたる時、厄難攘除の爲め空海上人に命じ作らしめ給ひたる不動明王なり、毎年舊正月十九日の大法會には厄難除と稱し、遠近より參詣するもの多く雜沓せり。

○阿保親王墓（あほしんのうのはか）　驛より三十丁、打出村にあり、親王は平城天皇第三の皇子にして天長の始め兵部卿に任じ後、上野下野の大守たり、本朝の歌仙在原行平及業平兄弟は此親王の子なりと云ふ、打出村なる古刹阿保山親王寺は古へ親王が殿舍のありし所なりと云傳ふ。

神崎驛

新橋より三百五十九哩五分
大阪より四哩六分

○長洲（ながす）　驛の所在地を云ふ、昔は長洲濱とも稱し觀月の勝區として世に知られたる所なり、大阪より來りし阪鶴鐵道は此所にて東海道鐵道と路を岐ち、北に折

れて伊丹、池田を經て丹波に入り篠山、福知山、綾部を過き舞鶴方面に達すべし。

○近松門左衛門墓（ちかまつもんざえもんはか）　驛の北約十一丁、川邊郡久々知村廣濟寺（こうさ）内にあり、翁は長門國の産にして、久しく京阪の地に遊び我邦絶大の文豪戲曲作家として、世に知られし人なり、承應二年に生れ享保九年七十二歳を以て沒せり、翁の當寺に因緣あるは當時中興の祖日昌上人と相識れるを以てなり、墓は細かなる自然石にて作り、碑面に阿篠院穆矣日一具足居士及び一珠院妙中日事信女と夫婦の法名を刻せり。

○神崎川（かんざきがは）　驛より東十二丁、淀川の支流にして大阪府と兵庫縣の境界にあり此下流尼ケ崎町にして直に海に通ず、神崎川鐵橋は此川の上に架れり、此邊田野開け春季菜花の咲く頃、滿目黃金世界と化し、又夏の日一面稻田にして蒼海に變じ、流車中の眺め一入心目を喜ばしむ。

大阪市の部に詳記せり。

梅田驛

新橋より三百四十五哩九分
神戸より二十哩三分

大阪市の部に詳記せり。

吹田驛

新橋より三百五十哩一分
大阪より四哩八分

○吹田町（すいたまち）　三島郡の南、神崎川の北岸にあり、人口六千三百、攝津平原の中央に位し、土地肥沃、古來農業盛なりしを以て自然此地の繁榮を來す所となり今は郡内屈指の大邑たり。

○高濱神社（たかはまじんしや）　驛より五丁、吹田村字六地藏にあり素盞嗚尊を祀る、創立年代詳ならざれども附近に於ける古祠にして、建長三年後嵯峨天皇の御歌に『きて見れば千代も經ぬべし高濱の松にむれゐる鶴の羽衣』と詠じ給ひし舊跡なりと。

○護國寺（ごこくじ）　驛より五丁、吹田村字札場にあり、曹洞宗、午頭山と號す、開山大徹和尚は後圓融天皇の勅を奉じ、野州那須野原に於て殺生石を破碎したる有名の高僧にして、其時用ひたる錫杖及び袈裟等は今尚寺寶として保存せり、又境内の觀音堂に安置する觀世音菩薩の銅像は聖德太子の守本尊なりと云へり。

○瑞光寺（ずいこうじ）　驛より約三十丁、西成郡大道村字北大道にあり、臨濟宗妙心寺派にして天龍山と號す、境内鯨橋は特に歩を移して一見するの價値あり此橋は寶暦六年紀州熊野より寄附せし鯨骨を以て造りたるものにして、左右の高欄は其腮を用ひ、板橋も亦其骨を以て造りたりしが、寛政年間腐朽せし部分を石材に取替へたるを爲め、稍其風致を損するに至りたり、此寺明治四十三年秋淀川附近に於ける陸軍工兵演習の時、皇太子殿下の行啓あり、以來一層其名を著はせり。

○歌塚（うたづか）　驛より約一里、西成郡中島村字江口にあり、遊女妙と西行法師と贈

答の和歌を刻みたる一基の石柱を建つ『世の中をいとふまでこそかたからめかりのやどりを惜む君かな』とあるは西行の歌にて『世をいとふ人としきけばかりの宿に心とむおとおもふばかりぞ』と記したるは遊女妙の答詠あり、共に新今古集に載せられたれば皆人の能く知る所なり。

○吹田の桃林（すみたのとうりん）　驛より約二十丁、千里村字佐井寺の内、河田山の小丘にあり、俗に吹田の桃山と呼ぶ、桃樹五萬餘株の多き、山野を埋め、陽春三月花開く交には、紅雲彩霞、春風に飜り一望仙境の趣きあり。

茨木驛

新橋より三百四十五哩七分
大阪より九哩二分

○茨木町（いばらぎ）　三島郡の中央にあり、北は山崎街道に連り、南は淀川の流れを隔てゝ北河内の諸村落に接す、人口五千百を有し郡中の主邑なり。

○茨木神社（いばらきじんしや）　驛より七丁、茨木町の西端、茨木川の右岸にあり、鄕社、天兒屋根命を祀る、當地の産土神にして毎年五月十四日の祭禮は殊に賑ひを極む。

○磯良神社（いそらじんしや）　驛より二十五丁、三島村字西河原にあり、一に疣櫻の宮と云ふ、社頭に一の清泉あり、玉の井又は便の水と稱し、此水にて疣を洗ふ時は忽ち脫落するの効ありとて、遠近より參詣するもの多し。

○總持寺（そうぢでら）　驛より二十五丁、三島村字總持寺にあり、古義眞言宗、補陀洛山と號し西國巡禮二十二番の札所なり、寺寶として後小松天皇宸翰の緣起を始め高僧名手の作りし木像繪畫等百餘点を藏せり。

○玉川（たまがは）　驛より三十丁、三箇牧村字西面にあり本邦六玉川の一に數へられたる名所なりしも、今は纔に一條の細流を存するのみ。

○藤原鎌足塚（ふぢはらかまたりつか）　驛より約三十丁、安威村字將軍山の中腹にあり、初め大

職冠鎌足の遺骸を此所に埋め、後大和多武峯に改葬せしなりと云ふ、傍に一祠あり、大職官神社（たいしよくかんじんしや）と云ひ、鎌足及び其子淡海不比等を祀れり。

○三島江神社（みしまえじんしや）　同く三箇牧村字三島江にあり、大物主神を祀る、所謂式内社の一にして、松樹境域を罩めて蔚然たり。

○繼體天皇御陵（けいたいてんのうごりやう）　驛より約三十丁、太田村字高田にあり藍野陵（あいのゝみさゝぎ）と云ふ、附近に太田神社（おほたじんしや）及び幣久良神社（へくらじんしや）あり、共に此地方の古祠として一般の尊信厚し。

○勝尾寺（かつをでら）　驛より約二里半、箕面山の北なる勝尾山の高嶺にあり、應頂山と號し、西國第二十三番の靈場たり、詳きは箕面有馬電鐵箕面停留場の部にあり。

高槻驛

新橋より三百四十一哩六分
大阪より十三哩三分

○高槻町　三島郡の北東に位し、山崎街道と茨木街道との相岐る丶所にあり、人口三千五百八十を有し、舊永井氏の居城ありし地として廣く世に知られし所たり今此地に第四師團工兵第四大隊（〃）の兵營を置かれ、此地の繁華を添ゆる所となれり。

○高槻城趾　驛より五丁、高槻町の中央にあり、永井氏の舊領地にして久しく此所に居を設けたりしも、今は唯其壘壁及び塹濠の跡を存せるに過ぎず、舊城内に野見神社あり、延喜式内の古社にして、午頭天王と號し、其末社若宮に永井氏の祖先の靈を祀れり。

○地藏院　驛の北五丁、清水村の中にあり、天平勝寶二年行基僧正の開基に

係り、其後弘法大師留錫の地なるを以て其名著はる、本尊延命菩薩は女人安産、衆病除、壽命長遠の功德あ丶りとて諸人の信仰するもの多し。

○伊勢寺　驛より十丁、三島郡磐手村字古曾部の高丘にあり、俗に伊勢本山と云ふ、曹洞宗、本尊聖觀音は慈覺大師の手作なり、當寺は往昔伊勢姫が草庵を結びて世を避けたる所なるより此名ありと云ふ。

○伊勢姫の古廟　伊勢寺の境内本堂の西にあり伊勢姫は式部大丞藤原緻蔭の女にして博學多才和歌を善くし又能文の譽れ高し彼の伊勢物語、伊勢集は其著書中の尤なるものとす。

○靈松寺　驛より約十丁、芥川村にあり曹洞宗、牛黄山と號す、本尊聖觀音は行基の作にして古へより由緒正しき靈場なりしも星霜幾多、今は漸く衰頽して昔日の觀なし。

○金龍寺（きんりうじ）　驛より三十丁、磐手村字成合の山腹にあり、延曆年間參議阿部是雄の草創に係る、天台宗にして念佛上人を開山とし、初め安滿寺と云ひ後百餘年を經て僧千觀之を中興し金龍寺と云ふ、其後山を金龍寺山と稱し松茸の產地と云ひ殊に山上の見晴し好く大阪市街の如き一眸の下に瞰めらるゝを以て秋季に至れば登山するもの頗る多く、又本堂の西南に邂逅の池（たまさか）あり昔金龍此池より昇天せしとて金龍池とも云へり。

○

たまさかに見るだにさびし世のつれの
雪のみやまを思ひこそすれ

千觀

○

春風に今は氷もたまさかの
池のおもてはさゞ波そうつ

家隆

○本照寺（ほんせうじ）　驛より約一里、富田村にあり眞宗、本願寺蓮如の父存知の開基にして安阿彌作、阿彌陀佛を本尊とす、堂前の松樹を富壽榮の松（ふすにまつ）と稱し恰も大傘を立てたるが如し、其高さ四十尺、根廻り十五尺、枝葉は東西百五十三尺、南北一百尺餘に廣がり眞に稀有の靈松なり。

○慶瑞寺（けいずいじ）　本照寺と同じく富田村にあり、持統天皇の八年、道照法師の開基にして初め景瑞庵と云ひ、臨濟宗を奉ぜしかど後、明曆年中僧龍溪中興して黃蘗宗に改めたり、寺寶には許多の宸翰の類を藏せり。

○普門寺（ふもんじ）　同じく富田村にあり、臨濟宗、說嚴和尙の開基にして其後一時頽廢せしを明曆の頃、龍溪和尙入て、再興せり、堂宇は老松翁鬱の間にありて、頗る閑靜を極めり。

○能因法師の墓（のういんほうしのはか）　驛より約十丁、磐手村字古曾部にあり、能因は世を逃れ

たる名にて、實は古曾部入道と云ひたる由、幼時より歌道に志し遂に其精妙を極めたる人にて、名歌少からず、中にも左の二首の如きは最も秀逸なりとて世に聞へし

○

都をば霞と共に立ちしかど
秋風ぞ吹く白河の關

○

嵐ふく三室の山のもみぢ葉は
たつ田の川の錦なりけり

山崎驛

新橋より三百三十六哩九分
大阪より十八哩

○天王寺（てんのうざん）　淀川を挾みて男山と相對し、鬱然として驛の前に屹立す、此山高さ二百七十米突、山頂の眺望秀麗にして東、京都伏見の市街は更なり西、遠く攝津

河内の平野を一眸に收む、昔豊臣秀吉、明智光秀と戰ふ時、両勇其見る所を一にし即ち勝敗の決は此一山の得失にありとし互に之が占領に力を致せし所なり、尚山上の一端に勤王の志士眞木和泉守等殉難の碑（じゅんなん）あり

○寶寺（たから）　天王山の半腹にあり、寶積寺と稱し、眞言宗、補陀落山と號す、聖武天皇の勅願に依り、行基僧正の開基に係り、本尊十一面觀世音は行基の作なりと云ふ、堂前九重の石塔は聖武天皇の御塔にして門前の三重塔は大日如來の像を安置せり。

○妙喜庵（めっき）　天王山の麓にあり、禪宗、十一面觀世音を安んず、佛殿の傍に千利休の茶室（せんりきゅうしつ）あり、庭内一株の老松あり、亭々として聳ゆ、世に之を袖摺松（そすりまつ）と云ふ、天正年中秀吉寶積寺を本陣とし、徒然のあまり時々當庵に來り利休をして茶を點せしめたる所なりと。

○離宮八幡宮（りきうはちまんぐう）　大山崎村にあり、貞観二年の創建にして、應神天皇を祀る此地は古の山崎離宮にして、弘仁五年嵯峨天皇交野に遊獵し、日暮山崎離宮に御せられし事あり、故に此社今に離宮の二字を冠すとぞ。

○水無瀬宮（みなせみや）　驛より十丁、三島郡島本村字廣瀬にあり、官幣中社、後鳥羽、土御門、順德三天皇の靈を祀る、社務所の中にある一室は、往時後水尾天皇の臨御あらせられたる茶室ありとて、最も大切に保存せらる。

○櫻井の里（さくらゐのさと）　驛より二十丁、島本村字櫻井にあり延元元年楠正成、湊川へ出陣の時、其子正行に遺訓し、訣別したる所として名高し、子別れの松は枯木となりて、纔に其俤を存するのみ。

○長岡天滿宮（ながをかてんまんぐう）　驛より約一里、山城國乙訓郡神足村字開田にあり、菅公の靈を祀る、昌泰四年菅公筑紫に左遷の途次、遇々この地を過るとき、寛平法皇の侍臣祐房と云へるもの別を惜みて公の影像を寫し後、遂に祭りて神とすと云ふ、境内に池あり、池畔に梅楓躑躅多く、四時の風光絶佳なり。

○楊谷寺（やなぎだにでら）　驛より約十五丁、乙訓郡海印寺村字淨土谷にあり、白河天皇の御宇、永觀上人の創建にして、本尊千手觀音俗に柳谷觀音と稱す、本堂の傍に飛瀑あり、楊柳の瀧と云ふ、觀音薩陀に祈願を籠め此水にて目を濯ぐ時は眼病忽ち癒ゆとて、遠近より參籠祈禱するもの絡繹たり、緣日は毎月十七日なり。

○光明寺（こうみやうじ）　驛より約一里二十丁、乙訓村字粟生にあり、報國山と號し念佛三昧院と稱す、淨土宗西山派の總本山、建久四年熊谷蓮生法師の創建せし寺院にして惠心僧都作、阿彌陀如來を安置し、その師法然上人を請して入佛供養式を行へり、阿彌陀堂、閻魔堂、法然上人の廟等あり、堂宇いづれも壯麗にして殊に構造の妙を極め、建築家の模範とする所なりと云ふ、境内楓樹多く且高燥の地にあるを以て眺

望頗る佳絶なり。

向日町驛

新橋より三百三十二哩二分
大阪より二十三哩七分

驛より十五町、向日町字勝山にあり神武天皇を祀る、養老二年の創建なり、社地を勝山と稱するは豊臣秀吉征韓出陣の途次、本社に賽し社司を召し山名を問ふ、社司故に勝山と答ふ、秀吉大に喜ぶ爾來以て其名とすと、當社の馬場の櫻は世に著はる、祭日毎年五月一日なり。

○長岡舊都　驛より約十四丁、向日町字鶏冠井にあり、延暦三年桓武天皇大和奈良より始めて都を遷されたる所なり、近年此所に一基の碑を建て來訪者の栞となせり。

○大原野神社　驛より約一里十二丁、大原野村にあり、官幣大社、祭神は

奈良春日神社と同體にして、武甕槌神、經津主神、天兒屋根命、姫神の四靈を祀る仁明天皇の嘉祥三年、奈良より此處に勸請して平安城の守護神と定められたり、本社の左右に廻廊あり、殿宇頗る壯嚴なり、境内樹木森々と生茂り神さびて最と深邃なり。

○勝持寺　大原野神社の西方にあり、天台宗にして小塩山と號し、又俗に花の寺と云ふ、役小角の開基にして、文德天皇の時、佛陀上人の中興せし所なり、本尊藥師佛及び左壇の毘沙門天は傳敎大師の作、右壇の不動明王は役小角の作、堂前左方の内洞に安置する不動石像は弘法大師の作あり、境内數株の櫻樹あり花の頃遠近雅俗の來り遊ぶもの多し。

○芳峯寺　驛より一里半、大原野村字小塩の山腹にあり、長元七年源算上人の開きたる天台宗にして、千手觀音を本尊とす、中世慈鎮和尚來住し、爾後法親王

の入室あり、故に一名西山御所の稱あり、此寺文明年中兵燹に罹り燒けしも、元祿年中再建せり、寺域二萬九千六百餘坪、櫻楓其他の樹木繁茂し、四時目を喜ばすに足るものある上、西國順禮第二十番の札所なるを以て諸方より參詣するもの多し。

○淳和天皇御陵（じゅんわてんのうごりょう）　驛より一里二十丁、大原野神社の西にあり大原野西嶺陵と云ふ、兆域廣からざれども修築清掃能く行屆き、中央は陵土稍高く數株の松樹繁茂せり。

○乙訓寺（おとくでら）　驛より二十丁、乙訓村字今里にあり、眞言宗、聖德太子の創立にして弘法大師の中興に係ると云ふ、弘法大師自作の本尊、合體大師及び聖德太子作の十一面觀音は美術上の參考品となり、毘沙門天の立像は國寶となれり、境内弘法大師手植の菩提樹あり、今尚生茂りて人目を惹けり。

○勝龍寺城趾（しょうりゅうじじょうし）　驛より南一里神足村字勝龍寺にあり今纒に殘壘を存す、文

明年間畠山義就の築く所に係り、夫の明智光秀も山崎役の前、暫く此所に入城せし事ありと云ふ。

○戀塚寺（こひつかでら）　驛より東一里紀伊郡上鳥羽村にあり、遠藤武者盛遠が、袈裟御前を誤殺し、一念悔悟の結果剃髮して文覺と號し、此所に一寺を建立して袈裟の菩提を吊ひたる所なり、附近に袈裟御前の塚あり。

○桂川（かつら）　源を丹波に發する保津川の下流にして、嵐山の麓に於て桂川となり南流して淀川に合す、京都向日町間の瀧車鐵橋は此川に架れるものなり。

京都驛

京都市の部に詳記せり

新橋より三百二十八哩一分
大阪より二十六哩八分

稲荷驛

新橋より三百二十六哩三分
大阪より二十八哩六分

○稲荷神社（いなりじんしや）　驛の前、即ち伏見街道東側稲荷山の麓にあり、本殿と朱の大鳥居は瀧車中より望むを得べし、官幣大社にして和銅二年始めて三ヶ峰に鎮座せしを永享十年足利義教祈願に依り、今の處に遷座せしなりと云ふ、宇迦之御魂大神、佐田彦大神、能賣大神の三柱を祀る、文徳天皇仁壽二年の秋、奉幣祈雨の御願ありてより毎年五穀豊穣を祈り、後三條天皇延久三年三月行幸の事ありてより歴代天皇の屢々行幸の事あり、近く明治九年十二月皇后陛下の行啓あり、社殿は延喜八年藤原時平の修造、文治八年足利義教の造營等ありしが應仁二年兵燹に罹り暫く假殿を營み、天正十七年豊太閤新に之を造營し社殿樓門いづれも壯麗を極めたり、今の本殿これなり、境内廣濶、老樹繁茂し本殿後の山路溪谷の間に多くの末社あり、之に詣

ずるものを御山廻りと云ふ、大祭は毎年四月二の午の日行ひ又毎月巳午の日小祭を行ひ殊に二月の初午は參拜者夥しく非常の群集雑沓をなすと云ふ。

山科驛

新橋より三百二十三哩三分
大阪より三十一哩六分

○勸修寺（くわんしうじ）　驛より六丁、宇治郡山科村字勸修寺にあり、眞言宗、醍醐天皇の母后の本願に依り延喜四年創建せし所、開基は範俊僧正、本尊は千手觀音なり、世世法親王又は一山の高僧を以て法主に充つ由緒貴き名刹なり。

○隨心院（ずゐしんゐん）　驛より六丁、山科村字小野にあり、眞言宗、僧俊阿闍梨の開基なり、昔は攝家の枝葉當寺に住職たりしを以て小野門跡と稱せり。彼の小野小町の父小野良實の宅跡なりとて、今尚小町の井戸（こまちのゐど）と呼ぶもの境内にあり。

○山科御坊（やましなごぼう）　驛より二十二丁、山科村字東山にあり、本派本願寺の別院に

して舞樂寺と稱す、文明年間道如上人の創建に係る大伽藍なりしも、屢々兵燹に罹りて頽廢し、今の堂宇は安永年間佳如上人の再建せしものに係る、爾後漸く舊觀に復し宏大なる靈場とはなれり。

○醍醐寺　驛より約十六丁、醍醐村にあり、眞言宗、深雪山と號し醍醐天皇の勅願に依り創建せし所、開祖は理源大師なり、伽藍は山上と山下とにあり、山上にあるを上醍醐とし、山下にあるを下醍醐とす、下醍醐には山門、本堂、五層塔開山堂等あり、本堂には本尊藥師佛を安置し、此堂は醍醐天皇御遠忌の爲め、豊太閤の建立せしものなりと云ふ、開山堂は弘法大師及理源大師の像を安置し五層塔は本堂の東に高く聳へ說相曼荼羅を掲ぐ、上醍醐は麓より三十餘丁の坂路を登り山上にあり、觀音堂、五大堂、如意輪堂、祖師堂、藥師堂等の建物あり、閼伽井は觀音堂の下にあり、往昔理源大師始て此山に上りし時、白髮の異人現れ此水を指し、醍醐

の清泉なりと示せしものなりと、山勢燐峋として古杉老松多く、西國十一番の札所なる上、近頃山中に靈泉を以て浴湯を設けたれば、參詣を兼てこれに遊ぶもの多く山中時に賑ひを示すことあり。

○三寶院　下醍醐の傍にあり、醍醐寺座主の住院にして三寶院門跡と稱せり、承久年中後鳥羽上皇の祈願に依り建設せり、慶長三年豊太閤觀櫻の宴を張りたる舊跡にして門扉に菊と桐とを刻し、本殿の屋根は檜皮葺なり、殿宇の壯麗眼を驚かすばかりなる上、林泉の美又天下に冠たりと云ふ。

○一言寺　三寶院の南にあり、眞言宗、醍醐寺に屬す、本尊十一面觀世音は安阿彌の作、當寺は信西入道の女、阿波内侍の舊跡にして、境内に内侍堂あり、其像を安置せり。

○日野藥師　驛より約一里、醍醐村字日野にあり、法界寺と云ふ、日野家宗

の建立にして、本尊は傳教大師秘佛と稱さるゝ金銅七寸の藥師佛の座像なり、天正年中炎上、今阿彌陀堂を本殿に充つ、婦女の乳汁に乏しきものは此藥師に祈禱を籠むれば靈驗ありと云傳へ參詣人多し。

○安祥寺（あんせつじ）　山科村字藪の下にあり、眞言宗、僧慧運の開基にして、文德天皇の勅願所あり、古來著明の巨刹にして寺中に惠心僧都が唐より請來せる延命地藏尊を安置せり。

○大石良雄の邸宅（おほいしよしをのていたく）　驛より半里、山科村字西野山にありて元祿赤穗義士の頭梁、大石良雄が世を忍びし邸宅は既に茶園に化し去りしが、去る明治三十四年里人良雄の二百回忌を營むに當り、田圃を改修して一の紀念公園を開設せり、又同所の岩屋寺（いはやでら）には四十七士の木像あり。

○醍醐天皇御陵（だいごてんのうごりやう）　隨心院の東醍醐村字醍醐にあり、後山科陵と云ふ。

○朱雀天皇御陵（しゆじやくてんのうごりやう）　醍醐天皇御陵の南にあり、醍醐陵と云ふ。

○天智天皇御陵（てんちてんのうごりやう）　驛より北一里十丁、山拜村字御陵にあり、山階陵と云ふ、南面して大津街道に向ひ、後に山を負ひ、琵琶湖疏水の川路其傍を通じ、壯嚴なる陵域を構へり。

○阪上田村麿墓（さかのうへたむらまろはか）　驛の西北十一丁、山科村字西野山にあり、田村麿は桓武平城嵯峨の三朝に歷事し大將軍となり、屢々東夷を平げ武功を著したる英將なり弘仁二年五月五十四歳を以て薨ず、嵯峨天皇深くこれを惜み給ひ、國家の鎭護として永く後世に傳へんとて、甲冑を穿ちたるまゝ此所に埋葬せられたりと云ふ。

○平重衡塚（たいらのしげひらつか）　驛より南一里、醍醐村字日野にあり、重衡は重盛の子にして一の谷の戰に敗れ虜となり、鎌倉に送らるゝ途中市の坂に斬られ、夫人佐の局遺骸を得て此所に葬りたるなりと云ふ。

○明智光秀塚（あけちみつひでつか）　驛より南二十丁、醍醐村字北小栗栖の田圃中にあり、塚は僅に三尺四方許に過ぎず、塚は寂れて訪ふものなし。

大谷驛

新橋より三百九十哩九分
大阪より三十五哩

○逢阪山（あふさかやま）　驛の側にあり、近江山城の通路に當り、中古は山中に關所の設けありて其名著はる、大谷隧道は此山の一端を貫通せしものなり。

○

逢坂の山越ゑはて〻眺むれば霞につゞく滋賀の浦波

後京極攝政

○

これやこの行も歸へるも別れては知るも知らぬも相坂の關

蟬丸

○關の清水（せきのしみづ）　逢坂山の峠にあり、弘法大師の直筆火除名號の標石を建つ、

一見の價あり。

○蟬丸社（せみまるのやしろ）　驛の上にあるを上の蟬丸と云ひ、隧道の東口にあるを下の蟬丸と云ふ、蟬丸は醍醐天皇第四の皇子にして、琵琶の妙手、又和歌に巧なりし事は皆人の知る所なり。

○

世の中はとてもかくてもおなじ事宮もわらやもはてしなければ

○關の小川（せきのをがは）　逢坂山の溪谿に發し、大津に至り吾妻川となり、其末鏡川となり琵琶湖に注ぐ。

○走井（はしり）　大谷茶店の軒端にあり、此水は後の山よりこゝに走り下りて、涌出で其水四季に增減なく、しかも一種の甘味を帶べるを以て往來のものはこれを掬ひて渴を潤はせり。

馬場驛

新橋より三百八十八哩
大阪より三十六哩九分

○大津市　近江國の西南隅にあり、前に琵琶湖を臨み、後に逢阪山を負ひ、京都市べは、程道纔に三里に足らず、舊東海道五十三次の最終驛次に當り、人口三萬五千餘、鐵道は馬場驛の外に市内に別に大津驛なる支線を設け、交通に便し、又湖上には汽船を浮べ彦根、長濱、今津等の地へ達するの便を圖れり、故に旅客の往來貨物の集散最も頻繁を告げ、市街自と繁盛に赴き國中第一の都會たり。

○琵琶湖　驛より約三丁、一に鴻の海と云ふ、東西五里、南北十六里、周廻七十三里、我邦第一の大湖にして國内の水流は總て此所に注ぎ、其水又流れて勢田川及び疏水となり、山城國に入る、湖中に奥、沖、多景、竹生の四島あり、風景殊に佳絶なり、此湖より源五郎鮒を産せり。

○矢橋浦　驛より湖上約一里餘、栗田郡矢橋村にあり、此處より草津へ一里許にて達し、昔は來往の旅客皆此路に據りたるを以て繁昌の地なりしも、今は閑靜寂寞の境となれり、矢橋の歸帆は近江八景の一にして風色今尚昔に讓らざるなり。

○唐崎の松　驛より約二里餘、滋賀郡下坂本村にあり、湖岸に唐崎神社あり大巳貴命を祀り、社頭に一幹の松樹あり、此松は元天智天皇の御手植なりしが中世枯れ、豊臣秀吉の命に依り天正年間新庄直頼が栽替へたるものなりとも云へり枝葉八方に擴がり南北二十間、東西二十七間に亘り數百の柱を以て枝を支へ居り實に世に稀れなる名樹にして、深夜に至れば露を雨らせるを以て夜の雨とも云へり。

○堅田の浮御堂　驛より約四里十五丁、堅田町海門山滿月寺の境内にあり惠心僧都の草創に係り、堂は湖面に突出する事凡十四五間、棧橋を架して岸頭に達せしめたるも遠くより之を望めば全く水上に浮動するものゝ如し、堂内には一千躰

の阿彌陀如來を安置す、堅田の落雁は近江八景の一なり。

○比良山（ひらやま）　驛より麓まで約七里、滋賀郡木戸村にあり、直立二千八百八十尺近江第一の高山にして雪を以て名高く、初冬より春の彌生まで常に雪を載き、湖東を走る汽車中より鮮かに之を眺め得らるべし、比良の暮雪は近江八景の一なり。

○三井寺（みゐでら）　驛より約二十四丁、大津市字神出にあり、長等山園城寺と號し天台宗寺門派の本山にして、西國十四番の札所あり、境内に天智、天武、持統三天皇御降誕の産湯に供せし井泉あるを以て御井寺と名づけたりしが後、故ありて三井と改めたる由、史上に最も名高き寺にして、其古鐘堂には辨慶の曳摺鐘と稱するものあり、此地高燥、大津市街琵琶湖を一眸の裡に收め、近江八景の冠たる云ふまでもなし。

○高觀音（たかくわんおん）　驛より二十七丁、三井寺の隣地にあり、本堂には千手觀音を安

置し、阿彌陀堂には三國傳來の阿彌陀佛を安置す、境内の眺望清麗にして楓櫻多く春花秋葉に杖を曳くもの多く、八景に亞いでの名勝なり。

○天孫神社（てんそんじんしや）　驛より十四丁、大津市四ノ宮町にあり、彦火々出見尊、國常立尊、大巳貴命、中津彦命の四柱を祀れるより四ノ宮と號せしが、明治の初年今の社號に改められたり、毎年九月十日の大祭は町々より練物を出し非常の賑ひを告げ所謂大津祭是れなり。

○日吉神社（ひよしじんしや）　驛より約二里、坂本村比叡山の麓にあり、官幣大社、本宮には大山咋命を祀り以下七の宮まであり社殿の結構宏壯にして善美を盡し、毎年四月十四日の大祭には、七社の神輿乘船して唐崎の御旅所に渡り、これを山王祭と稱し、參詣人の群集する事夥しく、近江第一の賑ひなりと云ふ、境内高燥閑寂にして横川谷の水祠前を過り、櫻楓の名所として著はる。

○比叡山（ひえいざん）　驛より約二里半、坂本村の一方に屹立する山岳にして、山城近江両國に跨り、頂上を四明峰と云ふ、高八百二十五米突、山中老杉喬木繁茂せるも頂上は樹木なく眺望殊に佳あり、昔平將門此山上より平安城を羨望して逆意を生じ又勤王の志士蒲生君平は皇城の式微を望見して王政復古の大義を唱ふ、正邪異ると雖も同じく其所を一にす、實に偶然の事蹟と云ふべきなり。

○延暦寺（えんりやくじ）　比叡山の中腹にあり、地は坂本村に屬す、天台宗總本山、延暦七年僧最澄桓武天皇の勅を奉じ山上に伽藍を建て比江山寺と號し、平安城鎮護の靈場たらしめ、後ち一乘止觀院と改め、嵯峨天皇弘仁十四年延暦寺の號を賜ひ、爾來法燈彌々盛んにして堂塔伽藍充滿し、威望隆々たりしも、餘勢の激する所僧衆兵器を取て鬪擾を事とし、元龜元年織田信長の怒りに觸れ、火を放て一山悉く焦土に歸し、一時は殆んど見る影もなき有樣なりしが、其後豊臣秀吉これを再興し、寛永年

中德川家光巨資を抛て諸堂を建立し、爾來稍舊觀に復する事を得たり、堂塔は山中所在に從て四區に分れ、東塔、無動寺、横川、西塔これなり今其内譯を記すれば無動寺の部にあるものは明王堂、辨財天祠、大乘院等東塔の部にあるものは根本中堂經藏、文殊樓、本願堂、大黒堂、大講堂、鐘樓、前唐院及び戒檀堂等にして此内根本堂は當山草創の時建立せし止觀院にして、本尊傳敎大師作等身の藥師如來を安置しありて、現今の建物は寛永十九年德川家光の再建に係る所其建築結構頗る宏壯優美なるもの西塔の部にあるものは釋迦堂、惠亮堂、法華堂、常行堂、椿堂、淨土院等横川の部にあるものは横川中堂、根本如法堂舊蹟、元三大師堂、四季講堂、安樂院、定光院、飯室谷不動堂等なり、蓋し天下の大伽藍なるを以て今尚寺寶として所藏する古器物頗る多し、此山に登るには坂本よりする最も便なれども京都よりするには三路あり、一は洛東白川村よりし、一は修學院村よりし、一は八瀬村よりす

修學院より登るもの坂路最も險峻なり、白川村よりするもの行程稍遠しと雖も、平易にして途中無動寺を過ぎて中堂に達すべきなり、絶頂の眺望城江の湖山を雙眸の裡に收めて、其壯絶雄偉なる云はん方あし

○西教寺　驛より約三里、坂本村にあり、天台宗盛門派の大本山にして、大霍山と號し、天智天皇の八年に安置せし丈六阿彌陀を本尊とす、舟車の便あり毎年四月十七日同二十一日を緣日とす。

○來迎寺　驛より約二里半、坂本村字比叡辻にあり、長保三年惠心僧都、彌陀佛の來迎を夢みて建立せし靈場なり、當寺は元龜の兵燹を免れたる古刹なるを以て堂塔庫裡、總べて古色を帶び、其表門は明智光秀が住したる坂本の城門を徹して此に移したるものなるよし、寺寶として所藏する名畫珍品頗る多し。

○坂本城趾　驛より二里許、坂本村字穴太にあり城は織田信長の築きたるものにして、明智光秀の居城なりしが、光秀亡ぶると共に廢滅に歸したり。

○高穴穗宮趾　同所にあり、景行天皇此所に都を定め給ひしより、成務天皇に至るまで六十年間皇居の地たりしが、仲哀天皇の元年に廢墟となりしと云ふ。

○志賀都趾　驛より一里半、滋賀村字錦織にあり、天智天皇の皇居なりしが大海人皇子の反亂後、廢墟となれり、神樂波の志賀の浦と稱へらるゝは、此邊の事なるよし。

○義仲寺　驛より約三丁、大津市馬場にあり、元暦元年粟津ケ原の戰に討死せし木曾義仲を葬りたる所なり、側に俳壇の宗祖芭蕉翁の墓あり、門人碑を建て、『木曾殿と脊中合せの寒さ哉』の一句を彫す、風流韻士の來り弔するもの多し。

石山驛

新橋より三百十六哩三分
大阪より三十八哩六分

○石山寺（いしやまでら）　驛より二十丁、滋賀郡石山村字寺邊にあり、眞言宗天平勝寶年中良辨僧正の開基に係り、本尊三臂如意輪觀世音を安置す、西國第十三番の靈場なり世に名高き源氏の間は本堂の側にあり、これ寛弘年間紫式部が源氏物語を著した所とす、寺域九千六百餘坪を有し、古來眺望優美の地區にして、玲瓏たる琵琶湖を隔てゝ比良、比叡の峯巒を望み、勢田の長橋は歴々として脚下に横はるが如し、其風光の鮮なる、筆紙の能く盡す所にあらず、石山の秋月は近江八景の一なり。

石山秋月　近衛時熙

石山やにほの海てる月かけは明石もすまも外ならぬかな

○立木觀音（たちきくわんおん）　驛より一里二十七丁、石山村字南郷即ち瀬田川の下流にあり本尊觀世音は弘法大師四十二歳の時、此山の立木を伐取りこれに觀音の像を彫刻せしものなるより、俗に厄除の觀音と稱し、世の人四十二歳に達するものは、これに詣で、幸運を祈ると云ふ、此邊山腹なるを以て景色頗る好く、毎年一、四、七月の十七日を大縁日とし、其中一月は初立木と稱し、參詣者最も多しと云ふ。

○岩間寺（いはまでら）　驛より二里、石山寺字内畑にあり、西國十二番の札所にして、眞言宗新義派に屬す、養老年間僧泰澄之を建立し自己の持念佛なる千手觀世音を以て本尊とせし名刹なり、境内高燥、老樹蓊鬱として四面を圍繞し、幽靜閑雅の地なり。

○勢田の唐橋（せたのからはし）　驛より九丁、瀬田川の上に架り、川の中程に小島ありて大小二橋となり、大橋は長九十六間、小橋は長二十三間、欄干の擬寶珠古色を帶て風韻に富めり、勢田の夕照は近江八景の一なり。

さみだれにかくれぬものや勢田のはし　芭蕉

○粟津ケ原（あはづがはら）　滋賀郡膳所町に屬し驛の一端にあり、此地は木曾義仲が源範頼義經と戰ひ討死せし所たり、粟津の晴嵐は近江八景の一にして、翠松一帶道を挾み瀨田川を東方に望むの風光、眞に掬すべし。

○膳所城趾（ぜぜぢ）　驛より十五丁膳所村にあり、德川家康の築きたるものに係り、湖畔の一名所ありしが、現今滋賀縣監獄署の位置となり風景又舊時の如くならず。

○鹿跳岩（しかとびいは）　瀨田川の下流即ち滋賀栗太両郡の間にあり、両崖相接して山峽をなす、其幅約二十八間、尚河底の狹き所六間餘に過ぎざるを以て、鹿一躍すればこれを跳越す事を得べし、故に此名ありと云ふ、夏時此所に來り遊ぶもの多し。

○建部神社（たてべじんしや）　驛より十三丁、粟田郡瀨田村字神領にあり、官幣大社、大己貴命、天明王命、日本武尊を祀る、社殿宏壯にして老松四邊を圍み、人をして自ら崇敬の念を生ぜしむ、毎年四月十五日大祭を行へり。

山陽線、

附

琴播淡路

平磨路

方方方

面面面

○粟津ケ原（あはづがはら）　滋賀郡膳所町に屬し驛の一端にあり、此地は木曾義仲が源範頼義經と戰ひ討死せし所たり、粟津の晴嵐は近江八景の一にして、翠松一帶道を挾み瀨田川を東方に望むの風光、眞に掬すべし。

○膳所城趾（ぜぜぢ）　驛より十五丁膳所村にあり、德川家康の築きたるものに係り、湖畔の一名所ありしが、現今滋賀縣監獄署の位置となり風景又舊時の如くならず。

○鹿跳岩（しかとびいは）　瀨田川の下流即ち滋賀栗太両郡の間にあり、両崖相接して山峽をなす、其幅約二十八間、尙河底の狹き所六間餘に過ぎざるを以て、鹿一躍すればこれを跳越す事を得べし、故に此名ありと云ふ、夏時此所に來り遊ぶもの多し。

○建部神社（たてべじんしや）　驛より十三丁、粟田郡瀨田村字神領にあり、官幣大社、大己貴命、天明王命、日本武尊を祀る、社殿宏壯にして老松四邊を圍み、人をして自ら崇敬の念を生ぜしむ、毎年四月十五日大祭を行へり。

山陽線

附

淡路　方面

琴平　方面

山陽線目次

眞光寺……一
清盛の塚……一
俊寛塚……二
醍醐寺……二
能福寺……二
福海寺……二
殿島神社……三
藤の寺……三
來迎寺……三
七宮神社……三
和田岬……四
和田神社……五
福原都……五
夢の御所趾……五
長田神社……五
平知章碑……六
忠度塚……六
取山……六
醍醐寺……七
那須與市墓……七
妙法寺……七
綱敷天神……八
須磨寺……八
須磨寺公園……九
源光寺……九
須磨ノ關屋……九
厄除八幡宮……一〇
一の谷……一〇
鐵拐ケ嶽……一〇
敦盛塚……一一
境川……一一
海神社……一二
千女塚……一三
遊女……一三
舞子……一三
涼……一三
有栖川宮別邸……一三
石……一四
明石町……一四
人丸社……一四
盲杖櫻……一五
月照寺……一五
權現山……一五
長……一六
腕……一六
明石城趾……一六
休天神……一六
朝顏光明寺……一七
淨土光明寺……一七

岩屋神社……一七
曾根の松……一七
太山寺……一七
中崎遊園……一八
岩屋港……一九
絵島……一九
天鄕梅林……一九
金崎梅林……二〇
手枕之松……二〇
尾上神社……二一
尾上の松……二一
相生の松……二一
高砂神社……二一
高砂相生松……二一
日向神社……二二
鶴林寺……二二
石寶塚……二三
曾根の天滿宮……二三
栗林公園……二三
屋島壺之浦……二三
屋島寺……二三
五剣山……二三
法然寺……二三
龍宮天滿宮……二三
崇德天皇御陵……二三
白峰寺……二三
丸亀市……二三
丸亀城趾……二三
多度津……二三
海岸寺……二三
金藏寺……二三
善通寺……二三
琴平町……二三
金刀比羅宮……二三
琴平公園……二三
高松城……二三
高松市……二三
宇野港……二五
寒霞渓……二五
後楽園……二六
宗忠神社……二六
岡山城……二七
岡山市……二七
書寫山圓教寺……二六
增位山隨願寺……二五
亀山本德寺……二五
景福寺……二五
藥師山……二五
船場本德寺……二四
射楯主神社……二四
姫路城……二四
姫路市……二四

山陽線

兵庫驛

神戸より一哩一分

○眞光寺（しんくわうじ）　兵庫南逆瀬川町にあり時宗、西月山と號し仁明天皇の御宇惠蕚沙門、宋より歸朝の際宋王より賜へる大悲の尊像を携へ歸り、之を安置する爲め建立せし縣下著名の古刹なり、境内に本山の開祖一遍上人の墓（いつぺんしやうにんのはか）あり、又門外蓮池の畔に銅製の大露佛（だいろ）ありて眞光寺の如來と稱し其名高し。

○清盛塚（きよもりづか）　眞光寺の南にあり、十三層の輪塔にして高二十六尺、清盛は養和元年閏二月京都西八條に薨去せしが、僧圓實其遺骨を携へ來りて茲に埋め、弘安九年北條貞時、諸國巡察の時、此塔を建てたるなりと云ふ。

○琵琶塚　清盛塚と相對して建ち、これ壽永の役城四郎高家に討れし但馬守平經正の墳なり、經正は清盛の弟修理太夫經盛の嫡男にして、琵琶の妙手なりしを以て此く名くと云ふ。

○藥仙寺　兵庫南逆瀬川町にあり時宗、醫王山と號し、後醍醐天皇隱岐の國より還幸の際、病魔に犯され玉ひたるより此境内の清泉を汲み、藥餌を調へ參らせたるに、忽ち平癒あらせられ、天皇大に之を嘉し、寺號を醫王山と賜ひたる由云傳へり。

○能福寺　兵庫逆瀬川町にあり、天台宗、寶積山と號す、傳敎大師作藥師如來を本尊とす、境内に大佛の銅像(たいぶつのぞう)あり、身丈二丈八尺、臺石一丈、明治二十三年慈晃權大僧正の建立ありと。

○福海寺　西柳原町にあり、大光山と號し本尊釋迦如來を安置す。

○嚴嶋神社　永澤町にあり、平清盛の勸請に係り境内に龍燈の松あり。

○藤の寺　江川町にあり、紫雲山迎接院と號す、本尊阿彌陀佛、法然上人留錫の地にして、境内に紫藤あり、花季には頗る美麗なり。

○來迎寺　兵庫島上町にあり、一名築島寺と云ふ、淨土宗西山派にして經島山と號す、本尊阿彌陀佛は惠心僧都の作なり、應永二年平清盛海面を埋て島を築く時、人柱となりて死したる幼童、松王の冥福を祈る爲め建立せし寺院なるを以て築島寺と名けたる由なれども、建武の兵燹に罹り當時の堂塔伽藍燒失、今は纔に小かなる堂宇を存するのみ、寺内に祇王祇女(ぎわうぎよ)の墓標ありと云ふ。

○七宮神社　北宮内町にあり、縣社、祭神大巳貴命、創立年代詳かならざれども、治承年間平清盛自ら七宮大明神の神號を記し、金幣と共に奉納せし事は社記にも見へたり、此社屢々大火に罹りて燒失、今の社殿は明治二十八年再建せ

しものなりと。

○和田岬（わだのみさき）　驛より約二十丁、兵庫港の西南に斗出せる和田崎町の海濱を云ふ此所老松白砂連なり風光頗る佳絶なり、岬頭に燈臺あり、不動赤色の燈光にして遠く海上を照らし、又曾て幕末勝海舟翁の建設に係る砲臺の廢址あり、此地名勝遺跡多く推古天皇討夷の爲め行幸あり、其時禊し給ふと云へる萩殿塚、安德天皇皇居を移させ給ひしと云へる內裏趾、平相國萬燈會を行ひしと傳へる燈籠堂、新田義貞麾下本間孫四郎尊氏の軍船に遠矢を放ちし遠矢濱、足利尊氏の陣取れる陣屋跡等ある外に笠の形に似て枝葉廣かれる笠松等其中の最も有名なるものなり、又近年此地に消毒所を設け、時々航海の船舶に向つて檢疫を施す事あり、附近の海中へ軍用棧橋を架設し又別に一般船舶との連絡を取る爲め兵庫驛より分岐して鐵道を布設し、棧橋をも設け大に一般運輸の便を計れり。

○和田神社（わだじんしや）　和田岬の北部和田宮通にあり、縣社、萬治年間武庫川の邊押照の宮より流れて此所に上らせ玉へりと即ち祭神は天御中主命にして、社殿壯麗、老樹蓊鬱す、海上鎭守の神として渡海者の尊信淺からずと云ふ。

○福原舊都（ふくはらきうと）　治承四年平清盛の遷都せし福原は今の兵庫の地にして、其都趾は東尻池寺山にあり、福原の名、今は纔に舊湊川堤下遊廓に存して又舊都を說くものなし。

○夢野御所趾（ゆめのごしよあと）　市の北方、石井村の內夢野にあり、平清盛都を福原に遷し治承四年六月安德天皇行幸の事あり、是れ其遺跡なりと傳ふ。

○長田神社（ながたじんしや）　市の西北、長田村にあり官幣小社、事代主命を祀り神功皇后攝政元年の創建なり、應和三年村上天皇の寄進に係る石燈籠は拜殿の西方にあり淳和天皇寄進の神鏡及び源頼朝奉納の神輿神鏡等を始め其他神庫には數多の古器

物を藏せりと云ふ。

○平知章碑（たいらともあきらのひ） 西尻池村の路傍、長田神社華表の邊にあり、平家沒落の時、父知盛に代つて此所に戰死したりと云ふ、知章の碑と斜に相對して其從臣監物太郎頼賢の碑あり。

○忠度塚（ただのりづか） 駒ケ林にあり、俗に腕塚と云ふ、五輪の塔あり薩摩守忠度、一の谷の戰に敗れ戰死し其腕を埋むる所と云ふ。

鷹取驛

神戸より三哩二分

○鷹取山（たかとりやま） 兵庫の西に峙ちたる山岳にして、高三百三十米突、鷹取山は通名にして其本名は神撫山（かんなでやま）と呼べり、神功皇后三韓征伐の歸途、此處に來り石に座して其上を撫で給ふに、忽ち高山となる、依て神撫山の稱ありとかや、長田神社の

傍より北行して十八丁の坂路を登れば巔に達すべし、兵庫神戸の全景一眸に集り、眺望の妙謂ふべからず、附近に左甚五郎の作事せしと云ふ寺門を有せる大日寺（だいにち）と、在原行平の建立せし藥師寺（やくし）ありて何れも其名世に知らる。

○禪昌寺（ぜんせ） 鷹取山の西麓にあり、臨濟宗、帝釋神撫山と號し延文年中僧、宗光の開基なり、本尊聖觀音を安置せり、境内楓樹多く秋錦の候には、雅俗の來り觀るもの多し。

○奈須與市墓（なすのよいちのはか） 源平屋島の合戰に扇の要を射て、譽れを後世に殘せし宗高の墓は禪昌寺の北方數丁の所にあり。

○妙法寺（みょうほうじ） 同じく鷹取山の西麓にあり、眞言宗、新鞍馬寺と稱す、本尊行基僧正作毘沙門天なり、始め聖武天皇の勅願所にして坊舍三十七を有せしが、年と共に荒廢に歸し承和年中定範上人來り住せし以來、之を造營して纔に其俤を殘せり

須磨驛

神戸より四哩六分

須磨村字西須磨の海濱にあり、菅原道眞を祀る、菅公築紫左遷の途次、此浦に船を留め漁者纜を敷きて遷座なさしめたる古跡なりとぞ、綱敷は其纜を敷けるよりの名なるべし。

○須磨寺　上野山福祥寺と云ふ、本尊栴檀木の觀音にして天長年中和田岬の海底より網に懸りて揚り其靈驗赫著なるより此事忽ち叡聞に達し、光孝天皇仁和二年聞鏡上人に勅して此寺を草創せしめられたる所なり、寶物には青葉の笛、敦盛自筆の和歌、敦盛赤旗名號、母衣絹名號等あり又本堂の左側に義經腰掛松と、寺の門前に若木の櫻とありて、壽永三年義經武藏坊辨慶をして櫻樹の傍に建てしめたる制札今尚殘れり。

此華江南所無也　一枝於折盜之輩者　任天永紅葉之例
伐一枝者可剪一指　壽永三年二月

此寺昔は寺領ありて坊舍十七を有せし巨刹なりしが、時勢の變遷に伴ひ今は大に荒廢を極め、堂宇傾き伽藍朽て坊舍の如きも存するもの纔に二三に過きず。

○須磨寺公園　須磨寺境内及其附近の地を近年開拓して一大遊園地となし地域數萬坪に達して。種々娯樂の設備をしてこれに遊ぶもの頗る多し。

○源光寺　須磨寺の西南にあり、光源氏の舊跡と稱ふる所、此寺の門前に芭蕉翁の句碑あり『見渡せばながむれば見れば須磨の秋』豊後の俳士芳羅坊の建立せし所なりと。

○須磨關屋　源光寺の西、街道の左右に一堆の臺あり、此所即ち其遺跡なりと云傳へり。

○

淡路島通ふ千鳥の鳴く聲は幾夜寢さめぬ須磨の關守

兼員

○

淡路島はるかに見つるうき雲も須磨の關屋に時雨きにけり

家隆

○厄除八幡宮（やくよけはちまんぐう）　驛より北三十丁田井畑村にあり、毎年一月十八日其祭禮を行ひ、遠近より參詣するもの夥し。

○一の谷（いちのたに）　驛より十四丁、西須磨の盡所にあり、高凡四丁谷幅二十間兩岸岩の高十二間餘、源平古戰場として其名高く、壽永三年平家安德天皇を擁して此所に籠りたる時、設けたる假皇居即ち內裏跡と稱するもの谷上にあり、其西に二の谷（にのたに）三の谷（さんのたに）あり。

○鐵拐嶽（てつかいだけ）　攝播兩國の境、即ち二の谷の奥にあり、是れ九郎判官が直下し

て平氏の不意を襲ひし地にして、坂落し、岩石落し等の個所あり、山の北面を鵯越（ひよどりごえ）とす、神戸三木間の通路なり。

○敦盛塚（あつもりつか）　三の谷の直ぐ西にあり、五輪の石塔にして高一丈餘臺石四尺四方あり、實は北條貞時が平家戰死の冥福を祈らん爲め、建てたるものなりと云ふ、路傍に一軒の蕎麥屋ありて敦盛蕎麥（あつもりそば）の名世に聞へり。

鹽屋驛

神戸より六哩四分

○境川（さかひ）　敦盛塚の西にある一小流にして、攝播兩國の境をなす、芭蕉の句に『蝸牛の角ふりたてよ須磨明石』此所に海水温泉塲あり。

垂水驛

神戸より八哩二分

○海神社（わたつみじんじや）　驛の傍にあり、一に垂水神社と稱す、國幣中社、住吉明神を祀

る神明帳に祭神三座一に日向明神と稱すとあり、當村の產土神なり。

○千壺（せんつぼ）　驛より西北五丁、西垂水村の内にある丘陵の名にして一に五色塚と云ふ、地内老松繁茂し前は海に臨みて風景頗る佳絶あり、昔仲哀天皇の皇子磯坂忍熊の二王、神功皇后三韓征伐の歸途を待受け、これを害せんと圖りし所にして、當時丘上には假に仲哀天皇の陵を設け、縱一尺計の小壺を數限りなく埋立て、これに當時五色の花を生け葬儀を擧げたるを以て此名を呼ぶに至れりと云傳へらる。

○遊女塚（ゆうちょうか）　西垂水村街道人家の前にあり、俗に傳へ云ふ建武の頃筑前博多の商人江口の遊女の爲めに建るものなりと、又一說には大阪の遊女下の關へ往かんとして此海に溺死したれば、或人憐みて此塚を築けりと。

舞子驛

神戸より九哩四分

○舞子濱（まひこはま）　播磨國明石郡の内西垂水より山田に至る海濱の稱にして、東西六七丁南北二三丁、此間松林を以て埋め古松數千株、概ね梢を等ふし枝幹屈曲或は葡ふが如きあり或は舞ふが如きあり、葉色殊に深く且濱邊の砂は白玉を散せるに似て樹々の翠と相映じ、海上の淡路島は正に對座して嫣然笑を含むの狀あり、風景の天下に嘖々たる故なきにあらず、街道の南海岸に沿ふて數戸の旅宿料亭あり、神戸又は京阪邊より絶へず來遊するものあり、此地名物に舞子燒と稱する陶器ありて、其名世に著はる。

○有栖川宮別邸（ありすがはみやべつてい）　驛の東方三丁左方の丘上にあり、外觀は餘り宏壯美麗と云ふにあらざれども、土地高燥にして、しかも其邸地廣く亭舍の肅洒なる恐らく地に其比を見ざる所ならんか。

○石窟（せきくつ）　驛より北十八丁許の所にあり、こゝに洞穴の破壞せるが如きもの二三ヶ所あり、古墳の跡なるべしと云ふ。

明石驛

神戸より十二哩

○明石町（あかしちやう）　播磨國明石郡の中にあり、中國街道の要衝に當り、北に丘陵を負び南は海に臨んで淡路島に相對し、戸數約五千八百人口二萬六千を有し、商業繁盛國中姫路市に次ぐの都會たり。

○人丸社（ひとまるしや）　驛より東北四丁、舊城趾の山續きなる人丸山の上にあり、鄕社、本朝の歌聖柿本人丸を祀る、故に本社を稱して柿本神社と云ふ、往古は今の明石城の所にありしを、元和四年小笠原氏築城の際、此地に社殿を遷せりと云ふ、山の西方華表の傍に清水の涌出るを龜の井と稱し、山上海に向つて茶店數軒あり、眺望最

も佳絶なり。

○盲桜櫻（もうちやうさくら）　人丸社の祠前にある櫻樹にして、昔築紫より或る盲人の來りて『ほの〳〵と、誠あかしの神ならば我にも見せよ人丸の塚』と詠ぜしに、其目忽ち開げ明かに見る事を得しかば、今は用なしとて其携へたる櫻の杖を地上に突立て去りたるに不思議にも枝葉生ひ出で、花を咲せたりとか云傳ふものこれなり。

○月照寺（げつせうじ）　人丸社の西に並びて立ち、以前は同社の別當職なりしものなり、本尊釋迦如來は安阿彌の作に係り、寺中諸種の寶物を藏して衆人の縱覽を許せり、庭前に船形をなせる一大梅樹あり、赤穗義士間瀬久太夫手植の樹にして、其花は薄紅其實は八ッ房なるを以て其名世に著はる。

○權現山（ごんげんやま）　人丸山の東に當れる丘陵を云ふ、山上松林中に權現の祠あり、眺望の絶佳なるは人丸山の右に出づべし。

○長壽院（ちやうじゆゐん）　人丸山の麓、鐵道線路の北手にあり、舊明石藩主松平家代々の菩提所なり。

○腕塚（うでつか）　長壽院の南、鐵道線路の傍にあり、薩摩守忠度の腕を埋めし所なりと云傳ふ、又此附近大藏谷村の西、字忠度町と稱する所に同墓あり、傍に古松一株孤立し人丸山より能くこれを望み得らるべし。

○明石城趾（あかしじやうし）　驛の後にあり土地高燥、老樹鬱蒼として繁茂し、壘壁檣樓其間に聳ゆ、即ち舊明石藩の城趾にして、元和年中小笠原右近太輔の始めて築く所なりと云ふ、今城内は宮内省の御料地となり、其一部に地方の農學校を建てり、又城の壕には近頃白蓮を栽培したれば、夏季頗る美事なり。

○休天神（やすみのてんじん）　人丸社の附近ある大藏谷村にあり、昔菅公左遷の時、此地を過ぎり休息ありしに因みて祠宇を營みしものなり、社内に菅公腰掛石と稱するものあり。

○朝顔光明寺（あさがほこうめつじ）　鍛冶屋町にあり、境内に源氏月見の池と稱するものありて光源氏の古跡なりと云へり。

○淨土光明寺（じやうどこうめうじ）　同じく鍛冶屋町にあり、明治十八年、今上天皇御巡幸の砌其行在所に充てられたる所にして、附近有數の寺院たり、本堂より前を望めば、遠く海濱の景色一眸の中に落ち、風光最も佳絶なり。

○岩屋神社（いはやじんしや）　明石町の南戎町にあり、縣社にして伊弉諾、伊弉冊、大日靈、月談、蛭子、素盞嗚の六座を祀り町中第一の大社たり、例年九月十三日祭禮を行ひ、參詣人群集して非常の賑ひを呈すと云ふ。

○太山寺（ふとやまでら）　驛より北二里、明石郡伊川谷村にあり、本尊藥師如來を安置し、慶雲四年大職冠鎌足の子、定慧法師の開基に係り、後元正天皇の勅願所となり

大に堂塔伽藍を修築して國家鎮護の道場となれり、其仁王門の額は小野道風の筆に成り、寺寶には珍器佳什尠からず、境内櫻樹多く後山には不動の瀧、聲明の瀧等あり、春の花見より夏の避暑へ亘りて來り遊ぶもの多し。

○中崎遊園（なかさきいうゑん）　驛より八丁、相生町の南方にあり、一條の長堤青松を戴き白砂を帶び、東西に横はりて一字形を爲す、淡路島は近く眼前に泛び、呼べば當に應へんとす、此所に海水浴場の設けあり。

淡路方面

明石町の海濱と、淡路島との間の海峽は、其間最も狹き所二十丁に過ぎず、此間日々數隻の渡船ありて往來の便を計れる中當明石町より淡路北方の名邑たる岩屋浦までは海上約一里八丁計あり、これ又毎日數回汽船の往來せるものあり、攝播地方の遊覽客にしてかねて此邊の風景をも觀んとする方は即ち此所より發船して適宜遊覽せらるゝ方最も便利なりとす。

○岩屋港（いはやかう）　津名郡の北端、明石海峽の稍東方に偏したる所にあり、海峽の潮流急なるを以て、瀬戸内海航行の船舶、烈しき風浪に遇ふときは此所に避難するを常とす、平素は漁舟の碇繫場に過ぎず、此地に**岩屋神社**（いはやじ）あり。

○繪嶋（ゑじ）　岩屋港の附近にあり、風景佳なるを以て名あり、藤原宗基の國風に『さよ千鳥ふけゐの浦に音づれて繪島が磯に月傾きぬ』又大繪島一に大和島あり、景色頗る佳なり。

播磨方面

明石驛以西の地にして名所古蹟の觀るべきもの其數却々に多し今其中の重なるもの、殊に鐵道線路附近に沿ひたるものを取りて、其大要を左に揭ぐ。

○天滿梅林（てんけうばいりん）　大久保驛（神戸より十五哩九分）より北二十五丁、小高き丘

の半腹にあり、老幹千餘株二町歩餘の畑地の間に枝を交へて立列び、丘上より瞰むれば淡路島山前に横はり、尚眼下に萬頃の麥畝を見る、風景の美、眞に愛すべきものあり。

○金崎梅林（かなさきはいりん）　同驛より十五丁、天鄕梅林の西にあり、天鄕に比して樹は若く林は狹く到底同日に論すべからざるも、此邊も亦丘上の半腹に位し、眺望に富みたるを以て花季杖を曳くもの多し。

○手枕松（たまくらのまつ）　土山驛（神戸より二十哩）より西南一里十丁餘、加古郡別府村鎭座**住吉神社**（すみよしじんしや）境内にあり、古松は地に蟠り、枝幹蜿蜒東西四十八間南北十三間餘の廣さに亘り、其容姿宛ら人の肱を枕とし眠れるに彷彿たり、故に此名あり一種の靈木とも稱すべきものあり（編者云ふ普通に遊覽する所謂播州巡りなるものは土山驛に下車し手枕松を見て以下曾根松まで一覽し阿彌陀驛に出るを順路とす）

○尾上松（をのまつ）　加古川驛（神戸より二十四哩三分）より南三十丁、尾上にある住吉大明神を祀れる**尾上神社**（をのへじんしや）の後手なる約四丁四面の松林を云ふものにして其全景舞子濱に類し風光頗る好き所なり、**相生松**（あいおいのまつ）と稱するは尾上神社の境内にあり、雌雄の両種一根より生じ、枝葉繁茂して四方に廣がれり。

●尾上鐘（をのかね）　同所尾上神社の境内社殿の前なる屋舍に吊しあり、高三尺二寸、周圍七尺二寸、厚一寸九分、徑二尺五寸、昔神功皇后三韓より持歸り給ふものゝ由にて、これを撞けば其音響遠く聞ゆ、其製造の年代は今得て詳かにすべからざれども千四五百年以上のものたるは亦疑ひなかるべしとぞ。

●高砂相生松（たかさごのひおいまつ）　加古川驛より南一里、尾上の西十餘丁の所にある素盞嗚尊稲田姫、大巳貴命三座の神を祀れる**高砂神社**（たかさごじんしや）の境内にあり、尾上にあるものに比し枝幹尚能く繁茂し、一層の美觀を呈せり、松の側に尉姥の祠あり其古像を埋

むと云ふ。

●日向神社　加古川驛より北三十丁、大野村にあり、彦五瀨尊（神武天皇の皇兄を）祀り、郡内の大社とす。

○鶴林寺　同驛より南十丁、鳩里村字北在家にあり、刀田山と號し天台宗、用明天皇二年聖德太子の建立に係る古刹なり、佛殿には釋迦三尊四天王の像と及び太子の頭髮を植へたる太子十六歳の尊像とを安置し創建以實來に千四百餘年の星霜を經たれども、未だ曾て回祿の災ひなく其儘現存せるは、寧ろ奇と云ふべきか、鐘樓の古鐘は、尾上鐘と同じく千數百年前のものにて、古色蒼然世に稀れなるものなりと。

●石寶殿　寶殿驛（神戸より二十六哩四分）より西南二十四丁、印南郡米田村の内塩市村の山腹にあり、祭神は大巳貴命、少彦名命にして一の石殿を神體とし

て其前に拜殿を設けり、石殿は幅二丈三尺高二丈六尺、周圍に水を湛へ其上に稚松生じ、一見石殿の池中に浮べるが如し、傳へ云ふ上古大巳貴命、少彦名命の二神一夜の中に石殿を造らんとし、工半にして夜明に及びたれば其儘打捨て去りたるなりと、安誕附會の說取るに足らざれども、兎に角古代の遺物として其名最も世に聞へり。

○曾根松　曾根驛（神戸より二十八哩九分）より東二十三丁、曾根村字御茶屋なる縣社曾根天滿宮の境内にあり、昔菅公左遷の時此所に休息せられ、小松の苗を手栽せられしもの、其後繁茂し天正の頃彌々蔓りて樹の周圍一丈八尺に及びたり、然るに當時のものは其後枯朽し、現在のものは老樹の末だ枯れざる天明元年春頃より、其樹の下に自ら實生出來り、生長最も速かにして今日まで百二十餘年の星霜を閱して幹の太さ三抱へに餘り、高三丈枝葉繁茂する事東西十七間南北二十

間の廣さに達し、老樹の幹は側に一舎を作りて齋祀れり。

○姫路市（ひめじ）　姫路驛（神戸より三十四哩一分）のある所播磨國第一の都會にして人口三萬八千を有し、此地東西に通せる中國街道より更に但馬因幡乃至作州津山を經て伯耆米子に通ずる街道ある外陰陽連絡線の舊播但鐵道も亦此所を通じ四通八達交通往來の便最も好き所たり、此所の産物は革細工を主とす。

○姫路城（ひめじ）　姫路驛の北にあり、貞和年間赤松貞範初めて此所に築き、其後山名宗全來り領し、天正年中秀吉此城に移りて新に天主閣を築き、五層の樓閣高く天に聳へ外壁を塗るに白堊を以てせり、故に一に白鷺城と稱す、此城德川氏時代より酒井氏の所領に歸し、今は陸軍の所轄となり城内に第十師團（だいじふ）の兵營を設けり

○射楯兵主神社（すたてへうじんじや）　同驛より五丁、一に惣社と稱し、姫路城の傍にあり、祭神は五十猛命、大己貴命、九所神の三座にして其創起最も古く、今は市内の大社たり、社内に影向松、血池清水等の名跡あり。

○船場本德寺（せんばほんとくじ）　同驛より約八丁、船場地内町にあり、東本願寺の別院にして元和三年教如上人の開基に係り、本尊阿彌陀如來親鸞上人の畫像其他を安置せり

○藥師山（やくし）　同驛より十六丁、本德寺の西にある一丘陵にして、眺望に富み山上に紀念碑を設け今公園となれり。

○景福寺（けいふくじ）　市内船場にある一禪寺にして、舊藩主酒井氏代々の菩提所たり。

○龜山本德寺（かめやまほんとくじ）　驛より南二十丁、飾磨町の内字龜山町にあり、本願寺蓮如上人の開基に係り、代々其連枝を以て此所に住職たらしめ、即ち西本願寺の別院として最も由緒ある大寺なり。

○增位山隨願寺（ざうゐさんずゐがんじ）　同驛より北一里、廣峯山の南方にあり、今より千四百餘年前、聖德太子の開基に係り、太子自ら其像を巖に刻み給ひしとて今に太子谷の名

殘れり、聖武天皇天平七年行基僧正此寺を建立し、仁明天皇の朝に至り今の寺號を賜はりし由緒ある古刹なり。

○書寫山圓教寺（しよしやさん　ゑんけうじ）　同驛より北一里三十二丁、飾磨郡曾左村にある當國第一の巨刹なり、此所は西國二十七番の靈場にして、一條天皇永延二年性空上人の開く所、本尊如意輪觀世音は安鎮の作なり、此寺花山法皇の再度行幸あり、又後醍醐天皇隱岐國より還幸の途次行幸ありて諸堂巡禮ありたりとぞ、又山麓に王院の馬場車寄、女人堂、引雲岡、紫雲堂等の古跡あり其外烏帽子岩、辨慶學問所、如意ケ滝等山中名所甚だ多し。

琴平方面

幾内中國遊覽の客にして四國地方殊に琴平方面に赴かんとする方は現時其行路として、最も便利なるもの先づ鐵道に依り山陽道岡山驛に出で宇野支線に乘替へ宇野港に到り同港より日々數回同方面へ通

する連絡汽船に搭ずべし、之に依る時は僅々三十分計の時間を以て其對岸高松市の埠頭に着すべし、尚連絡船の中には途中態々小豆島土庄港へも寄航するものありて、序に尚同地の景勝をも探る事を得せしむべし。

○岡山市（をかやまし）　岡山驛（神戸より八十九哩一分）のある所、三備第一の都會にして人口九萬二千を有し、縣廳市役所及び第十七師團の兵營を始めとし、其他地方官衙學校等設置せられ、鐵道は山陽本線の東西に貫通せる上に中國鐵道此所に起り、一は美作津山に至り一は備中湛井に通じ、而して四國方面の最捷路に當り宇野支線も亦此所より分岐して交通運輸の便を計れる等旁々商業頗る盛華の地たり。

○岡山城（をかやまじやう）　同驛より十二丁、旭川の畔にあり一に烏城と號し天文年間金光氏の築く所、後宇喜多直家、小早川秀秋等此所に居り、慶長八年池田忠繼來り代つ

て之に住し光仲に至り因幡に從り、光政代つて封を此地に受け、後相承けて明治維新に至れり、今舊觀を存するものは只一の天主閣あるのみ。

○後樂園（こうらくえん）　同驛より東十二丁、日本三公園の一と稱し貞享年中池田綱政の創設する所、面積約三萬坪あり、園内に多くの樹木を植付け丘陵又は芝生を設け又其傍を流るゝ旭川の水を引き、池沼を鑿ち橋を架し亭榭幾多其間に設けられたる趣きは得も云はれざる景色なり、去る明治十九年山陽道御巡幸の際、園中延養亭に玉座を設け、駐輦あらせられ又尋で昨年陸軍大演習の際、此所に行在所を置き、數日駐輦あらせられ、今これが爲め園の名聲一層世に聞へり。

○宗忠神社（むねただじんしゃ）　同驛より西南約一里、御津郡今村字上中野村にあり、神道黑住教會の本社にして教祖黑住宗忠の靈を祀る、大祭は毎年三月二十四五両日を以て執行し諸國の參詣人夥し。

○宇野港（うのこう）　宇野驛（岡山より二十哩四分）のある所にして、備前國兒島郡の内にあり、前は瀨戸内海に面し、小豆島、豐島其他諸島嶼及東讃の山影恰も掌に採る如く望まれ、風景頗る佳なり、四國に航せんとする旅客は概ね此所より連絡船に搭ずる事となり、十二哩の海上を僅々三四十分間にして對岸高松港に達すべし、尙連絡船は途中小豆島土庄港に寄航するの便あるを以て、今は却々の要衝の地となり旅客の往來日に頻繁を加へつゝあり。

○寒霞溪（かんかけい）　土庄港より約四里を距てたる小豆郡草壁村の内にあり、土庄より此地山麓まで人車を通ず、昔應神天皇此山に巡狩の際、斷巖峭立攀ぢ給ふに難く依て玉體を釣索に委ね御上陸あらせられしより神懸の名ありと、全山異峯怪巖より成り殊に山中楓樹多く、其景趣の異なると晩秋の候滿山燃るが如く錦繡を裝ふとにて昔く世に知られ、遠近探勝客の踵を接して來るものあり。

○高松市（たかまつし）　讃岐國の中部、瀬戸内海に面したる所にあり、香川縣廳の所在地なると、先年埠頭を修築し船舶の碇泊に便利を與へたるとにて、今は大に商業の繁華を來し加之讃岐鐵道の西讃に通ずるものありて更に交通運輸の利を增し人口三萬五千、當國第一の都會なり。

○高松城（たかまつじやう）　高松港の傍にあり、玉藻城と云ふ、天正年間生駒近規の築く所にして寛永年間以降松平氏居城たり、今は頽廢して角櫓城門の一部を殘すに過ぎざれども又優に高松の一偉觀あり。

○栗林公園（りつりんこうゑん）　高松驛より十餘丁を距て栗林村にあり、延寶年間高松城主松平頼重の別業として築く所なり、面積約十六萬五千坪我邦屈指の公園にして、巧に六大水局と十三大山塚を排置し築造せしもの、其規模の宏大にして風趣の絶佳なる眞に嘆賞すべきものあり。

○屋島壇の浦（やしまだんのうら）　同驛より東一里半、木田郡北潟元村にあり、山容家の屋根に似たるを以て名あり、其山の東麓を壇の浦と稱し、源平二氏の古戰場たり、又山の北海に突出したる所を長崎と云ひ安德天皇行宮（あんとくてんのうあんぐう）のありし趾なり、山上に屋島寺（やしまでら）あり千光院と號し四國第八十四番の靈場にして本尊千手觀音は弘法大師の作と云傳ふ、山の西に獅子靈巖の名所あり風景絶佳なり。

○五劍山（ごけんざん）　屋島山に相對して其東にあり、其山麓に四國八十五番の靈場八栗寺千手院あり。

○法然寺（ほうねんじ）　端岡驛（高松より五哩三分）より東二里、佛生山町の南端にあり、淨土宗來迎院と號す、本尊阿彌陀如來は圓光大師の作に係り、堂塔伽藍巍然として丘上に立ち、圓光大師廟及び高松藩祖及び累代の墳墓等あり。

○龍宮天滿宮（たきみやてんまんぐう）　同驛より南二里、瀧宮村にあり縣社、菅原道眞を祀る、天

曆二年僧空澄の創建する所、昔崇德天皇此地の勝を愛で給ひ屢々玉趾を留め給ひしと云傳ふ。

○崇德天皇御陵（すとくてんのうごれう）　鴨川驛（高松より九哩七分）より北一里餘、綾歌郡松山村字青梅白峯山の絶頂にあり、一に綾の松山と稱す、山腹に白峯寺（はくほうじ）あり、眞言宗、綾松山洞林院と號し、本尊僧智澄作千手觀音を安じ四國第八十一番の靈場なり、寺中に崇德天皇御廟所頓證寺御殿及び源頼朝建立の塔其外朝千鳥の琵琶塚等あり、殊に其名世に著はる。

○丸龜市（まるがめし）　丸龜驛（高松より十六哩八分）のある所、仲多渡郡の北部海に接したる地にあり、戸數約七千人口凡三萬餘、市内には兵營を始め官衙學校等ありて國中第二の都會たり。

○丸龜城趾（まるがめじやうし）　同驛より南十丁龜山と稱する丘陵にあり、一に蓬萊城と云ひ

慶長二年生駒親正の築く所、其後京極高和來り子孫相續いで之に居れり、現今此所に第十一師團（だいじふいちしだん）の兵營を置けり。

○多度津（たどつ）　多度津驛（高松より十九哩七分）のある所にして仲多度郡の西北部海に濱して中國九州より琴平參詣の要衝たり、人口約八千餘、鐵道は東高松より丸龜を經て來り此所より南折して琴平町に至る、運輸交通の便好く最も繁華の地たり。

○海岸寺（かいがんじ）　同驛より西二十丁、屏風ヶ浦にあり、經納山迦羅院と號し弘法大師修學の地として其名著はる。

○金藏寺（きんぞうじ）　金藏寺驛（高松より二十二哩六分）より東三丁、鷄足山寶憧院と號し智證大師の草創に係り堂塔伽藍壯麗を極め四國第七十六番の靈場なり。

○善通寺（ぜんつうじ）　善通寺驛（高松より二十四哩）より西十丁、五岳山誕生院と號し

弘法大師誕生の地、四國第七十五番の靈場なり、本尊弘法大師作藥師如來を安置し境内に五金塔、常行堂、金堂其他諸堂宇建並び、いづれも壯嚴を極め四國第一の巨刹なりとす、又此地近年第十一師團の司令部を置き尚これに伴ひ諸種の兵營をも設けたれば、寺の附近新に市街の建設を見て舊時に變り著き繁華の地區となれり。

○琴平町（ことひらちやう）　琴平驛（高松より二十七哩二分）のある所、即ち仲多度郡の中央琴平山の麓にあり、往昔は只一の寒村に過ぎざりしが、中古此地に鎮座せる金毘羅大權現の信仰するもの現はれ、次第に土地の繁華を來し、今は市坊の數十五、戸數約千五百、人口凡八千許を算するに至り瀘車汽船の便あると共に參詣の客陸續絶へず、時には非常の群集して非常の大賑ひを告ぐ事ありと云ふ。

○金刀比羅宮（ことひらぐう）　同驛より五丁、琴平山の半腹にあり、國幣中社、祭神は大物主命にして相殿には崇德天皇を祀る、舊象頭山金毘羅大權現と稱し金光院なる僧寺の之が別當たりしも、夫の明治の初年に神佛混淆を禁ぜられ爲に當山も神祭となり、金比羅神社と改稱せられ後又々明治二十二年今の金刀比羅宮となれり、當宮は創建の時代詳かならず、元來佛徒の所奉にして德川幕府の初め頃より大に世に著れ衆庶殊に船舶に關係あるもの、欽仰する所となり爾來今に至るまで威靈赫々として喧し當宮の大祭は毎年十月九、十、十一の三日間に亘り行ひ、非常の賑ひを告ぐと云ふ、境内主なる建物及び名所を記せば太皷樓、崇敬講本部、清少納言塚、神籬大門、櫻馬場、寶物館（本社の寶物を陳列して庶人に拜觀せしむ）神馬舍、社務所（舊別當金光院の館にして屋舍宏壯華麗を極む）萩戸社、火雷社、旭社（天照大神外七座の神を祀り社殿壯麗華美を盡す）銅華表、賢木門、遙拜所、連雛橋等にして尚本社の近傍には神饌殿、直所、神樂殿等相列り尚社後の山には世人の奥社と稱する末社嚴魂神社あり而して本社現時の社殿は去る明治十一年の改造に係り大社關

棟造り檜皮葺にして一切青丹を施さいるも其左右壁板には櫻樹の國を高蒔繪にて現はし其花瓣に金銀を彫め又拜殿の天井には花瓣の金蒔繪を施し光輝燦として人目を射るの結構は恐らく他に其類なしと云ふ。

○琴平公園（ことひらこうゑん）

琴平町の南にあり、鞘橋及神事場同じく町の南端にあり、當宮祭典の時神輿渡御の地なり。

阪鶴線

附天橋方面

棟造り檜皮葺にして一切青丹を施さゞるも其左右壁板には櫻樹の國を高蒔繪にて現はし其花瓣に金銀を彫め又拜殿の天井には花瓣の金蒔繪を施し光輝燦として人目を射るの結構は恐らく他に其類なしと云ふ。

○琴平公園（ことひらこうゑん）　琴平町の南にあり、鞘橋及神事場同じく町の南端にあり、當宮祭典の時神輿渡御の地なり。

阪鶴線

附天橋方面

阪鶴線目次

梅田停車場……一
昆陽寺……一
伊丹町……二
伊丹城趾……二
墨染寺……二
鍛物師天神……二
金岡清水……二
猪名野神社……二
生瀬溫泉……三
淨福寺……三
高窪岩……三
武田尾溫泉……四
溝瀧……四
鏑射寺……四
三田町……五
花山天皇御廟……五
香下寺……五
攝田八幡……五
有馬湯山町……五
有馬溫泉……六
溫泉神社……六
藥師堂……七
善福寺……七
瑞寶寺趾……七
水晶山……八
ケ瀧……八
奥藏寺……八
篠の瀧……八
青林寺……九
永澤寺……九
高仙寺……九
城山稻荷社……九
篠山町……一〇
玉地山公園……一〇
春日神社……一〇
習願寺……一一
柏原町……一三
福智山町……一三
元伊勢大神宮……一三
大江山……一三
綾部町……一三
舞鶴町……一四
田邊城趾……一四
新舞鶴町……一四
宮津町……一五
宮津城趾……一五
智源寺……一六
金引の瀧……一六

天の橋立……六
犬堂碑……七
赤岩……七
鶏塚……七
涙ケ磯……七
和泉式部手植櫻……八
龍燈の松……八
櫻山……八
切戸文殊閣……八
切戸文殊渡……八
橋立神社……九
天橋公園……九
龍神社……九
傘松……九
成相寺……一〇
國分寺……一〇
櫻峠……一〇

阪鶴線

大阪驛

○梅田停車場（うめだていしゃじょう）　阪鶴線の發着點にして、即ち此所を發し神崎驛に至り、東海道本線と路を岐ち、北に折れて池田、三田、篠山、福知山等を經て綾部に至り京都鐵道と連絡して舞鶴及び新舞鶴に達すべきなり、尚沿道名所舊跡散在せるも神崎附近は東海道鐵道神崎驛の部に、又池田寶塚間の如きは、箕面有馬電氣鐵道各驛の部に載せあるを以て、今此所にはこれを記せず。

塚口驛

梅田より六哩一分

○昆陽寺（こやじ）　驛より三十丁、河邊郡稻野村字本寺にあり、眞言宗、崑崙山と號

し天平五年僧行基の開基、本尊藥師如來、昔時は堂塔伽藍頗る宏壯を極めたりしが天正年間織田荒木の戰ひに兵燹に罹り、一時衰頽を極め其後又漸く再建して現時に傳へたるものなり、本堂の西北林中に行基の廟堂即ち開山塔あり、又此地は古歌に有名なる猪名の笹原の一部なりと云ふ。

伊丹驛

梅田より八哩一分

○伊丹町 河邊郡の南部に位し、戸數約一千五百人口凡七千餘を有し、古來清酒の釀造地として名高く、其繁昌隣驛の池田町に讓らず、百貨輻輳の地たり、驛前にある小丘は永祿天正の頃、荒木村重の據りし城趾にして、地に多田滿仲開基の墨染寺、鑄物師天神、辻の石碑、金岡清水等の名所舊跡あり。

○猪名野神社 驛より五丁、伊丹町字天王にあり、往昔豊櫻崎宮又野の宮

とも稱せり、素盞嗚尊を祀る、延喜四年の創建後、屢々變災に罹り、頽廢せしが、豊臣秀頼、再建し其後又貞享二年、修築をなし現時に傳はれり。

生瀬驛

梅田より十六哩八分

○生瀬温泉 驛より約三丁、有馬へ通ずる道の左側にあり、泉質は寶塚と同じく、諸病に特効あり、旅館の設けありて入浴に便なり。

○淨福寺 驛より四丁、塩瀬村字生瀬にあり、四宗兼學、寛元々年善惠上人の開基に係り、寺中に古鐘あり、昔法然上人の讃岐に謫せられし時、同地より西山上人に贈りしものと云傳ふ。

○高臺岩 驛の近傍武庫川にあり、一に鮎瀧と稱す、激水岩に碎けて水烟飛散し、白玉瀑布と化して巖、又巖に懸り、其奇觀實に名狀すべからず、此邊鮎の漁場にして、高臺岩と稱するもの、其水上に現はれ、常に多數の人の來り遊ぶ所

たり。

武田尾驛

梅田より二十哩八分

○武田尾温泉（たけだを おんせん）　驛より約五丁、武庫川の右岸にあり、泉源は銀龍水と稱し巖石の罅隙より湧出るものを云ふ、寛永の昔、武田尾直藏なる樵夫の發見せし所に係り、今は諸病に効驗ありとて廣くこれを用ゆる事となり、旅館料亭等を設け、浴客の便を計れり。

○溪龍（みぞたき）　武田尾の溪間を流るゝ武庫川の河中にあり、奇巖怪石蟠屈し、急湍奔流これに激し、銀碎け雪飛ぶの奇觀を呈し、尚其上流三田より下流生瀬に至る間其風趣幾んど丹波保津川に等しき個所ありき。

道場驛

梅田より二十四哩四分

○鏑射寺（てきしやじ）　驛より十五丁、道場村字御駒谷にあり、聖德太子の創建にして、

太子自作の千手觀音を本尊とす、境内四面山岳に塞され、風景頗る奇絶なり、此附近に百疊巖（ひやくでふいはほ）百間瀧（ひやくけんだき）等の勝地あり。

三田驛

梅田より二十六哩六分

○三田町（さんだまち）　攝津國の北、有馬郡の中央に位し、舊九鬼藩の城下にして、人口約四千を有す、播丹街道の要衝に當るを以て、物貨の集散頻繁を極む、花山天皇御廟（くわさんてんのうごべう）、香下寺（かうげじ）、鹽田八幡社（しほだはちまんしや）等の名勝あり、此所より有馬町へ至る道程二里、人力車馬車の便あり。

○有馬湯山町（ありまゆやまち）　有馬郡の南、六甲山の中腹に位し、古來温泉の湧出するを以て其名著はれ、人口凡二千、旅舍軒を連ね、浴客常に充滿して頗る繁盛を極む、此地上古、大巳貴命、少彦名命二神に由て起り、淳和、文德二天皇の行幸に依り其名顯はれ、僧行基、仁西等來りて寺院を建立し更に一段其名を知らるゝに至りた

れども、中世以降屢々火災に罹り、殆んど荒廢に歸せしことありしが、天正年中、豊臣秀吉其室北の政所と共に大に再興に努め、爾後漸く恢復して、再び現今の盛況を見るに至れり。

○有馬温泉場（ありまおんせんば）　湯山町の中央に位し、美麗なる御殿造の建物の中にあり、泉質塩類炭酸等主要の成分を占め、これに浴すれば第一胃病、貧血、神經病これに次で僂麻質斯、皮膚病等の諸症に特効あるを以て、遠近浴客常に輳り來り、就中夏季の如きは此地の山蔭にあるを以て、宜く避暑に適し、一層來遊者多く、非常の雜沓を告ぐ事あり、尚此外冷浴場、新湯、妬湯、眼洗湯等あり、いづれも繁昌せり。

○温泉神社（おんせんじんじゃ）　有馬町の東南愛宕山の半腹にあり、式内神社祭神、大巳貴命俗に之を三所權現と稱す、社殿壯麗にして附近に愛宕、稲荷、嚴島、天神の社祠あり。

○藥師堂（やくしだう）　有馬町にあり、元温泉寺の奥の院なりしものを、此所に移したるものにして、本尊、良覽律師作、藥師如來を安置す、寶物には行基、仁西各自作の影像其他數多を藏せり。

○善福寺（ぜんふくじ）　同町落葉山の麓にあり、禪宗、曹洞派、光德山と號し、開基僧行基、中興仁西上人、本尊は閻浮檀金を以て鑄たる長一尺五寸の阿陀彌一光三尊佛にして、推古天皇の朝、天竺より傳來せしを後、正慶三年攝州多田院より遷したるものなりと云ふ、秀吉眞筆の畫幅、林羅山有馬温泉記卷物其他寺寶として藏せるもの多し。

○瑞寶寺趾（ずゐはうじあと）　有馬温泉の東、七丁餘、古來錦繡谷（きんしうだに）又は日暮の里（ひくれさと）と稱し、巨刹瑞寶寺（ずゐはうじ）のありし址なり、境内楓樹多く、晩秋の風景比類なし、庭前に石碁盤あり、豊公の遺物なりと云傳ふ。

○鼓ケ瀧（つづみがだき）　温泉の南九丁、鼓山にあり瀑は上下二段に別れ雄瀧、雌瀧と云ふ巨巖崔嵬たる中に落ち懸り水聲洞谷に響きて、恰も鼓の響くに似たり、附近奇岩多く老樹枝を交へ夏季納涼の好適地とす、有明櫻島地獄（ありあけさくらじごく）等の名所あり。

○水晶山（すいしやうざん）　有馬町の西、約一里有野村字唐櫃の近傍にあり、六甲山に連り山中天狗巖、蜘蛛巖等ある外又二個の窟あり、柳の窟、百足窟と云ふ、尙附近燒谷瀧（うばだに）深戸瀧（ふかと）水無瀬瀧（みなせだき）等ありて探るべき奇勝尠からず。

○奥藏寺（おうぞうじ）　驛の西南約二里、八多村字附物にあり、往古の巨刹にして帝釋天を本尊とし、辨慶裏書の般若經等の什寛を藏せり。

○簾の瀧（すだれのたき）　奥藏寺の北に方り、大澤村の内にあり、土人呼んで水簾と云ひ、飛泉の直下して巖崖に懸れる樣又一奇觀なり。

梅田より三十哩四分

廣野驛

○青林寺（せいりんじ）　驛より東北一里、中野村字青野にあり、青葉山と號す、尊惠上人の開基に係り、本尊毘沙門天を安置す、附近末に岩窟の跡あり、末の窟と云ふ、其數實に三十餘に及び、傳へ云ふ太古火雨火風の時誰か此所に避げんが爲め造りたるものなりと。

○永澤寺（ながさわじ）　驛より北三里、小野村字母子にあり禪宗、青原山と號し、僧寂靈の開基、本尊救世觀音は閻浮檀金佛なりと傳ふ。

梅田より三十九哩

古市驛

○高仙寺（かうせんじ）　驛より約十丁、丹波國多紀郡古市村字南矢代にあり、松尾山と號し大化年間の創建にして本尊十一面觀世音を安ず、附近に於ける有名の古刹なり。

○城山稻荷社（しろやまいなりしやしや）　驛より西一里、今田村にあり、創建最も古く、現時の社殿

は三百年前に建てしものなりと。

篠山驛

梅田より四十二哩

○篠山町　驛より東一里餘、丹波國の西南部多紀郡の中央に位し、舊青山氏の城下、人口六千五百を有し、東は龜岡、園部、西は柏原に至るの中間にあるを以て、自然物貨の集散多く、近時第四師團の營所を此地へ置かれ、一層繁盛を來す事となれり。

○王地山公園　篠山町の東北、城北村字澤田にあり土地高燥、風光絕佳愛すべき所たり。

○春日神社　同く城北村字黑岡にあり、延曆二年大和春日神社より、勸請し初めは今の篠山城内の地にありしが、慶長十三年、城塞修築に際し、今の地に移轉せしなり、社殿壯麗、攝社末社多く、殊に樹木繁茂せるを以て自と城内の幽清を覺ゆ。

○誓願寺　篠山町の内にあり、淨土宗、足利義輝の遺子、天譽上人の開基に係り、本尊法道仙人の作、阿彌陀佛を安置す、其山門の十六羅漢は作者詳かならざれども、其工作精巧を極め、稀代の尤物として其名高し。

天橋方面

近畿遊覽の客の兼て天の橋立方面へ赴かんとするには東、京都方面よりは京都鐵道に依り綾部に至り、又大阪神戸方面よりは、當鐵道に依るの最も便利なりとす、而して右二線は丹波國綾部驛にて相會するものにして、これより直に丹後舞鶴へ至るべし、舞鶴驛にては又別に海岸線ある支線ありこれに乘替へ海岸驛に下車し此所より宮津行連絡汽船に搭乘すれば船は是より海上十六哩を走つて、僅々二時間計の内に宮津灣に入り宮津荷扱所の棧橋に着せん、天の橋立と宮津とは其距離約二十丁計に過ぎず、是よりは容

易に達すべければ近頃此便に依り續々これに赴くものあり、今此方面に於ける名所舊跡の主なるものを記すれば左の如し。

○柏原町（かしはら）　柏原驛（大阪より五十五哩四分）のある所、丹波國氷上郡の中央に位し京阪両地より三丹地方に通ずる要衝に方り、舊織田氏の據りし柏原城趾、八幡神社、鬼架橋等の名勝あり。

○福知山町（ふくちやまち）　福知山驛（大阪より七十一哩六分）のある所、天田郡の内にあり舊栃木氏の城下なり、由良川市街の東を流れ、鐵道は南より來りて東に走り、水陸運輸の便宜く、人口約一萬餘を有し、第十師團旅團司令部と兵營とを置かれ、市街繁盛、常國第一の都會とす舊城趾、一の宮神社、御靈神社、常照寺、久昌寺、天照玉神社等の名所あり。

○元伊勢大神宮（もといせだいじんぐう）　同驛より北約三里、丹後國加佐郡上河守村にあり、今の伊勢内外の太神宮は元此地に鎮座ありしを、雄略天皇の御宇伊勢國度會郡へ遷し奉れるなり、故に此祠を元伊勢社と稱し、世の崇敬頗る厚し、社殿は内外二宮に分れ其距離約一里にして其構造宮川、五十鈴川、菟道橋等大概伊勢に同じく、又内宮の左方谿間には天の岩戸の跡あり、又此附近に鬼ケ茶屋とて頼光酒呑童子征伐の際宿泊せし家等あり。

○大江山（おほえ）　同驛より北約七里、天田郡金山村にあり、一に千丈ケ嶽と稱す、山勢險峻坂路崎嶇、巔上怪巖嶄立する所に洞穴あり、傳へ云ふこれ昔酒呑童子なる怪賊の棲みたる所なりと、風雨多年今は崩壞して纔に其痕跡を存するに過ぎざれども、此地高く眺望に便なるを以て今は旅客の來り見るもの多し。

○綾部町（あやべちやう）　綾部驛（大阪より七十九哩三、分京都より四十八哩三分）のある所即ち京都鐵道との連絡點にして舊は九鬼氏一萬九千五百石の小藩の城下に過ざ

ざりしも、今は交通の便なる爲め漸く發展せんとし、旅客貨物の出入次第に頻繁を加へつゝあり。

○舞鶴町（まひづるちやう）　舞鶴驛（まひづるえき）（大阪より九十一哩四分、京都より六十哩五分）のある所、即ち丹後國加佐郡の中にあり、舊名田邊と稱し牧野氏三萬五千石の城下なりしが、明治維新後今の名に改め、先年此地附近餘部に海軍鎮守府の官署を設けて以來大に土地の發展を來し、其後又鐵道の開通して商工業とも著く旺盛の域に達し今は戸數約二千、人口一萬五千を算して宮津と並び樞要なる都會となれり。

○田邊城趾（たなべじやうし）　驛より約二丁、南田邊にあり、初め一色氏の築く所、天正の頃細川氏に歸し後、京極氏を經て牧野氏に移り子孫相承け明治維新に至りぬ、今城内心種園とて公園となり、細川幽齋に緣故の古今傳授の松及び紀念碑等あり。

○新舞鶴町（しんまひづるちやう）　新舞鶴驛（しんまひづるえき）（大阪より九十五哩七分、京都より六十四哩八分）の

ある所、舊餘部と稱し明治二十八九年の交までは一漁村に過ぎざりしが、一度海軍鎮守府の設置を見て以來忽ち新市街を作り、今は本來の舞鶴町を凌駕せん計りの繁華の地となり、海軍鎮守府の諸建物等見るべきもの尠からず。

○宮津町（みやづちやう）　舞鶴町より西約七里、丹後國與謝郡の中にあり、本莊氏の舊采邑市街殷賑、戸數約三千を有し舞鶴及び天の橋立との交通便利なるを以て常に是等遊覽客の來るもの多し。

○宮津城趾（みやづじやうし）　宮津町の中央を貫通せる大手川の東にあり、天正年間細川忠興父子の修築する所に係り、後慶長五年京極高知來り十二萬石の治所となり、其孫高國に至り罪を幕府に得て封を削られ、以後屢々城主を代へ、寶曆八年本莊氏入て、これに居し祿高七萬八千石を領し明治維新に至れり、城趾は今は外壕の外存せず全く市街に改まれり。

○智源寺（ちげんじ）　宮津町の南にあり、慶長年間藩主京極氏の建立に係り、日本三躰の一と稱する僧道照作一寸八分の黄金佛を本尊に安せり。

○金引の瀧（かなびきのたき）　宮津町の東、城東村字瀧馬にあり、高八十尺老松古杉枝を交へ溪間頗る幽邃なるのみならず、楓樹多く降霜の季には、紅葉滿谷美觀最も賞すべきものあり。

○天の橋立（あまのはしだて）　與謝郡成相山下府中村字江尻より南に向て宮津灣與謝海に突出せる沙嘴にして、一名を子日岬と云ひ此岬に抱擁せらるゝ内海を岩瀧灣阿蘇の海と稱す、其南端は宮津市街を北に離れたる切戸の水道を隔てゝ吉津村字文殊なる久志濱の砂洲と相對し、長二十七丁餘幅廣き所三十二間、白砂青松一帶其上に連り風光明媚なる實に我邦三景の一たるに耻ず、而して此風光を賞せんには、切戸なる文殊櫻山と、阿蘇海の西にある樗峠と、其對岸なる成相山より望むべく、樗峠よりは其岬を横一文字に、其他は縱一文字に瞰め得らるべし、以下附近の名勝を記さん。

○犬堂碑（いぬのひ）　宮津町の西端にあり、往古文殊堂を管せし海岸寺の僧一匹の犬を飼養し能く馴れ僧の意に從ひしが、後其犬死し僧これを憐み一宇を建て吊ひたるものの、宮津藩主永井尚長これを傳へ聞き義犬なりとて其所に一碑を建てたるものなり。

○赤岩（あかいは）　犬堂より約五丁の海岸にあり、藤原保昌の室、和泉式部臨月の身をして文殊に參詣を爲し途中此所にて産氣附き小式部内侍を産落したる跡なりと云ふ。

○鶏塚（にはとりづか）　赤石より約二丁、谷間の小丘に十數株の老松あり、其所に石佛の消然立ちたる所を云ふ、傳へ云ふ丹後守公基、和泉式部の眞蹟を埋藏したる所となり。

○涙ケ磯（なみだがいそ）　鶏塚より一丁餘距てし海濱にありて、一に身投石と云ふ昔平重盛の五男忠房の寵を蒙りし花松御前なるもの、平氏の沒落を嘆き、此所より身を投じて死したる趾ありと。

○智源寺（ちげんじ）　宮津町の南にあり、慶長年間藩主京極氏の建立に係り、日本三躰の一と稱する僧道照作一寸八分の黄金佛を本尊に安せり。

○金引の瀧（かなびきのたき）　宮津町の東、城東村字瀧馬にあり、高八十尺老松古杉枝を交へ溪間頗る幽邃なるのみならず、楓樹多く降霜の季には、紅葉滿谷美觀最も賞すべきものあり。

○天の橋立（あまのはしだて）　與謝郡成相山下府中村字江尻より南に向て宮津灣與謝海に突出せる沙嘴にして、一名を子日岬と云ひ此岬に抱擁せらるゝ内海を岩瀧灣阿蘇の海と稱す、其南端は宮津市街を北に離れたる切戸の水道を隔てゝ吉津村字文珠なる久志濱の砂洲と相對し、長二十七丁餘幅廣き所三十二間、白砂青松一帶其上に連り風光明媚なる實に我邦三景の一たるに恥ず、而して此風光を賞せんには、切戸なる文珠櫻山と、阿蘇海の西にある樗峠と、其對岸なる成相山より望むべく、樗峠よりは

其岬を横一文字に、其他は縱一文字に瞰め得らるべし、以下附近の名勝を記さん。

○犬堂碑（いぬだのひ）　宮津町の西端にあり、往古文珠堂を管せし海岸寺の僧一匹の犬を飼養し能く馴れ僧の意に從ひしが、後其犬死し僧これを憐み一宇を建て吊ひたるもの、宮津藩主永井尚長これを傳へ聞き義犬なりとて其所に一碑を建てたるものなり。

○赤岩（あかいは）　犬堂より約五丁の海岸にあり、藤原保昌の室、和泉式部臨月の身をして文珠に參詣を爲し途中此所にて産氣附き小式部内侍を産落したる跡なりと云ふ。

○鶏塚（にはとりづか）　赤石より約二丁、谷間の小丘に十數株の老松あり、其所に石佛の悄然立ちたる所を云ふ、傳へ云ふ丹後守公基、和泉式部の眞蹟を埋藏したる所となり。

○涙ケ磯（なみだがいそ）　鶏塚より一丁餘距てし海濱にありて、一に身投石と云ふ昔平重盛の五男忠房の寵を蒙りし花松御前なるもの、平氏の沒落を嘆き、此所より身を投じて死したる趾ありと。

○和泉式部手植櫻（いづみしきぶて うゑのさくら）

身投石の附近にあり、當時のものは枯死して、今のものは其後に實生して生長せしもの漸くに其俤を存せり。

○龍燈の松（りようとうのまつ）

式部樓の少し北にあり、昔し此所の文珠堂にて千部經を修せし時、龍神海中より燈器を捧げて來り、此松枝に懸け去りたりと云傳へらる。

○櫻山（さくらやま）

涙ケ磯より西約四丁、海に臨める小丘にして、此所眺望好く櫻山亭と稱する休憩所の設けあり。

○切戸文珠閣（きれどもんじゅかく）

天橋山智恩寺と號す、臨濟宗妙心寺派に屬す、本尊文珠菩薩は梵天帝釋化現の作にして、脇士は毘首羯摩の作なりと云ふ、二層の山門は上を黄金閣、下を海上禪叢と呼び、尚境内に鐘樓門、多寶塔、經藏、和泉式部塔等あり境域清淨を極め古來有名の靈刹とす。

○切戸文珠渡（きれどもんじゅわたし）

文珠と天橋との間の水道を云ふ、昔は此所を九世戸と云ひ

しを、中世切戸又は喜瀬戸と稱するに至り、小舸を以て両岸渡の便をなせり。

○橋立神社（はしたてじんしや）

切戸を渡りて岬の南端、松林の中にあり、又の名を磯清水橋立明神と云ふ、元は文珠境内にありしを、何日の頃にか此所に移せしものにして、閑雅靜寂の境たり、神社の右手に磯清水の靈泉ありて名高し。

○天橋公園（てんけうこうゑん）

橋立神社より北に一帶に連る白砂青松の間を云ふ、天橋園、紀念亭あり、紀念亭は先年皇太子殿下此地行啓の時設けし所なり。

○籠神社（かごじんしや）

天橋の北に聳くる所を江尻と云ふ、其所より四五丁隔る府中村の山麓にあり、國幣中社、豊受太神並に籠神を祀れり、後の松林を眞名井の原と稱し此所にも亦眞名井神社と稱する籠神社の攝社あり。

○傘松（かさまつ）

府中村より成相山に登る坂路の傍にあり、此所最も眺望に富み橋立は宛ら天の浮橋の如く、縱一文字に碧波に浮び、其風景の佳絶なる他に及ぶものな

く、筆舌の克く盡す所にあらず。

○成相寺（なりあひでら）　天橋の北府中村の中にあり、世屋山と號し、慶雲元年眞應上人の建立に係り、西國第二十八番の靈場なり、本尊聖觀音の像は上人の一老翁より授りたるものにして其名高く、山門の仁王は運慶、湛慶の作、不動堂の不動尊は常陸坊海尊の作なり、現時の堂宇は寛永年間の再建に係り土地高燥境内の眺望頗る好く與謝海を瞰むの景又謂ふべからざるものあり。

○國分寺（こくぶんじ）　籠神社の西、阿蘇海に面したる所にあり、護國山と號す、本尊藥師如來は聖武天皇の御作に係り、丈六藥師の腹中に安置せり。

○櫻峠（おうじたうげ）　橋立と相對して阿蘇海に面せる岩瀧村の後にあり、天橋眺望の絶好地にして此所よりせば、天橋を横一文字に瞰め得らるべし、海濱に旅舘二三あり、特に海水浴の好場所として知らる。

京都線

附　鼠山電氣軌道線

く、筆舌の克く盡す所にあらず。

○成相寺（なりあひでら）　天橋の北府中村の中にあり、世屋山と號し、慶雲元年眞應上人の建立に係り、西國第二十八番の靈場なり、本尊聖觀音の像は上人の一老翁より授りたるものにして其名高く、山門の仁王は運慶、湛慶の作、不動堂の不動尊は常陸坊海尊の作なり、現時の堂宇は寛永年間の再建に係り土地高燥境内の眺望頗る好く與謝海を瞰むの景又謂ふべからざるものあり。

○國分寺（こくぶんじ）　籠神社の西、阿蘇海に面したる所にあり、護國山と號す、本尊藥師如來は聖武天皇の御作に係り、丈六藥師の腹中に安置せり。

○樗峠（おうじたうげ）　橋立と相對して阿蘇海に面せる岩瀧村の後にあり、天橋眺望の絶好地にして此所よりせば、天橋を横一文字に瞰め得らるべし、海濱に旅舘二三あり、特に海水浴の好場所として知らる。

京都線

附　嵐山電氣軌道線

京都線及嵐山電鐵線目次

七條停車場……一
二條離宮……一
北野神社……二
妙心寺……二
龍安寺……三
後朱雀天皇御陵……三
仁和寺……三
鳴瀧川……四
五智如來……四
般若寺……四
三寶寺……四
法金剛院……五
高尾、槇尾、栂尾……五
高雄神護寺……五
槇尾西明寺……六
栂の尾高山寺……六
廣隆寺……七
八角堂……八
大酒神社……八
廣澤池……九
大覺寺……九
嵯峨釋迦堂……一〇
五大堂……一一
小倉山二尊院……一一
常寂寺……一二
往生院祇王寺……一三
新田義貞首塚……一三
厭離庵……一三
小楠公首塚……一三
天龍寺……一三
後嵯峨龜山両御陵……一四
臨川寺……一四
世良親王墓……一五
鹿王院……一五
野々宮……一五
嵐山……一六
渡月橋……一六
法輪寺……一六
愛宕山……一六
愛宕神社……一六
月輪寺……一七
水尾山寺……一七
龜岡町……一八
龜山城……一八
保津川……一八
矢田神社……一九
穴穂寺……一九
國部町……二〇

國部城趾……一〇
綾部町……一一
壬生寺……一二
高山寺……一二
木島神社……一三
廣隆寺……一三
大酒神社……一三
梅宮神社……一三
長福寺……一四
松尾神社……一四
西芳寺……一五
桂離宮……一五
久遠寺……一五
車折神社……一六
上嵯峨村……一六
嵐山……一七
嵯峨虚空藏……一八

京都線

京都驛

京都線鐵道の發着點にして、此所より二條、花園、嵯峨、龜岡、園部を經て綾部に至り、阪鶴線鐵道と接續會合して新舞鶴に達すべきなり、當驛附近の名所舊跡は、東海道線京都驛の部にあり。

○七條停車場(ひちでうすてーしよん)

二條驛

京都より二哩五分

○二條離宮(にでうりきう)　驛の東三丁、二條通堀川西にあり、永祿二年織田信長初めて此城を築きたる所、詳きは東海道線京都驛の部にあり。

○北野神社（きたのじんしや）　驛の北十二丁、北野右近の馬場にあり、官幣中社、菅原道眞を祀る、詳きは東海道線京都驛の部にあり。

花園驛

京都より四哩二分

○妙心寺（めうしんじ）　驛の北三丁、花園村にあり、臨濟宗妙心寺派の本山にして、本尊釋迦如來を安置す、此地初め花園上皇離宮のありし所にして、上皇佛法を信じ給ひ遂に離宮を廢し寺とおし、正法山妙心寺と名け、大德寺妙超の高足開山國師をして開基とおさしめ給ふ、寺内の一院玉鳳院は、當時上皇の隱栖し給ひし舊跡なり、此寺創建以來種々の變革を經、此間兵燹に罹りしこと往々あり現存の堂宇は後土御門天皇の時に再建せしものと、其以後に於てせしものとあり、佛殿は南面して二重瓦屋となり、中央に釋迦佛左右に迦葉、阿難の三尊を安置し裝飾繪畫、善美なるも

の、庭中林泉の幽雅なるもの頗る多し、境内に石田三成、佐久間象山の墓あり。

○龍安寺（りうあんじ）　妙心寺の北、花園村字谷口にあり、臨濟宗、細川勝元の創立、義天和尚の開基なり、本堂は元東福寺の照堂を移せしものに係り、天井の蟠龍及び迦陵頻伽の畫は兆殿司の筆なり、此地勝元の居舘なりしを以て、庭園は其嗜好に依て拵造せりと云ふ、鏡容池あり、辨財天祠を設け、冬期は水鳥多く群集す、龍安寺の鴛鴦とて名あり、附近に帝陵多し、後朱雀天皇圓教寺陵（ごれいせんてんのうえんけうじれう）、後三條天皇圓宗寺陵（ごさんじやうてんのうえんしうじれう）は兆域を一にし、一條天皇圓融寺北陵（いちでうてんのうえんゆうじほくのみさゝぎ）、堀河天皇後圓教寺陵（ほりかはてんのうごえんけうじのみさゝぎ）等あり。

○仁和寺（にんわじ）　花園村字御室にあり、眞言宗、光孝天皇仁和四年の創建にして宇多天皇落飾の後當寺に入り宮殿を造營し給ひしより御室又は大内山の稱あり、爾來法親王の住職し給ふ所となり、御室御所（をむろごしよ）、御室門跡（をむろもんぜき）として名高かりしも

應仁及び文明の兵燹に罹り大に衰頽を極め、寛永年中徳川氏に依て再び寺塔を造營し面目を一新せしが明治二十五年又々祝融の災に罹り、今は祖師堂及び金堂を留むるに過ぎざれども、寺域廣濶、尚舊觀を窺ふに足れり、寺内櫻樹多く、春時開花の頃には、爛熳雲霞を望むが如し、金堂には光孝天皇の像を安置し、傍に徳川家康の像を陪せり、附近に宇多天皇大内山陵(うたてんのうおほうちやまみさゝぎ)、光孝天皇後田邑陵(こうかうてんのうのこたむらみさゝぎ)、圓融天皇後村上陵(ゑんゆうてんのうのむらかみみさゝぎ)村上天皇村上陵(むらかみてんのうのみさゝぎ)等あり。

○鳴瀧川(なるたがは)　一名御室川(をなろがは)と云ふ、仁和寺の北の山より發し來り、南して桂川に入り水勢奔放響き遠くまで聞ゆるより其稱ありと、川の附近名所多し、即ち五智如來(ごちにより)は五智山にありて其傍に不動觀音、地藏等の石像を安ず、般若寺(はんにやじ)は眞言古義派、文殊菩薩を本尊とし弘法太師及び觀賢僧正の像を置き金映山三寶寺(きんにいざんさんほうじ)日蓮宗を奉じ、日護上人の開基、其釋迦堂の本尊運慶作の外同上人佛像彫刻の名手あるを以て其自作に係る佛像を多く安置せり。

○法金剛院(ほうこんごうゐん)　妙心寺の西にあり、雙岡寺(ならびをかでら)又は天安寺(てんあんじ)と稱し、眞言宗、初め清原夏野の山莊にして後今の名を稱せり、本尊阿彌陀佛は春日の作なり。

○高尾、槇尾、栂尾(たかをまきのをとがのを)　驛より西北約一里半、山城國葛野郡愛宕山の麓、清瀧川の溪流に臨みたる山間の地にあり栂尾其上流に位し、槇尾、高雄其次に位して三所とも相並んで山水に富み、殊に楓樹夥しきを以て特に其名著はれ、秋霜漸く下り滿山錦繡を綴るの交に至らば、其美觀たとふるに物なく、遠近雜俗蹝をなすと云ふ。

○高雄神護寺(たかをじんごじ)　三尾中の南にあり、光仁天皇の御宇和氣清麿の創建に係り初め神護寺と號せしを、淳和天皇の天長二年之を弘法大師に賜ひ、神護國祚眞言寺と改稱せり、本堂には藥師如來を、大師堂には弘法大師の像を安置す、鐘樓には世

世三絶の鐘と稱さるる有名なる梵鐘を懸く、鐘樓の傍に護王神社あり、別格官幣社にして和氣清麿を祀る、奥の院は尚これより三四丁頂上にあり、元地藏院のあり し跡にして、此所より清瀧川の清溪を眺下し、眼の及ぶ所皆楓樹ならざるはなく、蓋し山中第一の絶景の場所なり。

○槇尾西明寺（まきのをさいめいじ）　高尾より溪流に沿ひ上る事三丁許、對岸の山腹にあり、弘法大師の徒弟智泉法師の開基に係り、平等心王院と號し、後正忍律師の中興する所となり、律眞言兩宗を兼ね、現今の堂宇は元祿の頃德川家光の母桂昌院の重建せるものに係り、其建物の如き三尾中最も壯麗なるものとす。

○栂尾高山寺（とがのをかうざんじ）　槇尾より約三丁、三尾中最も北にあり、華嚴宗、比叡山尊意僧正の開基する所にして、初め天台宗を主とせしが、後今の宗旨に改めたり、本尊釋迦佛本堂に安置し、當寺中興の祖明恵上人御像を禪堂院に安せり、此寺中興以降屢々火災に遭ひ、多少舊時と趣きを異にするものあれども、現時漸く整頓せり、此邊又楓樹多く特に老幹巨枝に富み、一層人目を喜ばしむるものあり。

○廣隆寺（こうりうじ）　驛の西南方、太秦村にあり、三論眞言宗にして、聖德太子秦川勝に命じて創建せしめたる所なり、推古天皇の朝、百濟佛像を献じ奉り、これを葛野秦寺に安ずとあるは此寺なり、太子堂一に上宮王院と稱し、此堂は當初の建築にして今に到るまで千二百九十餘年を經、平安第一の古堂たり、中に太子自作三十三歳の像を安じ、金堂文明年間の再造、本尊藥師如來は化人の作、金銅救世觀音は百濟より、金銅彌勒菩薩は新羅より進献したるものに係り、いづれも此所に安置し、講堂保元年間再造、今七百三十餘年を經し古建物にして大安寺賢澄作丈六阿彌陀如來を安置し、地藏堂金堂と同時の再造に係り、弘法大師作埋木の地藏を本尊とし、別に同作毘沙門天と十一面觀世音を安置しあり此寺實に我邦有數の古刹たり、寺域廣

大老松其他喬木鬱蒼たる間に數百株の櫻樹あり、陽春の交百雲堂塔の間に掩映して風光頗る美なり、例年十月十二日の夜牛祭あり、極めて奇なる祭禮となす。

○八角堂（はつかくだう）　廣隆寺の境内にして太子堂の西にあり、本名桂宮院、八綾形なるを以て世々八角堂と稱し、又奥の院とも云ふ、推古天皇十二年太子初めて此勝地を推し、宮殿を起し楓野別宮と稱し、後改めて寺となす、此堂は當初建築の儘にして千三百年前の古建築なり、中央に太子自作十六歳の像及び同作二臂如意輪觀音、隨煬常進能の阿彌陀如來を安せり。

○大酒神社（おほさけじんじや）　廣隆寺の近傍にあり、元廣隆寺の鎮守なりしが、今は村社として此地の産土神たり、祭神は秦弓月王、秦酒公、漢織女、呉織女なり、弓月王は秦始皇の裔にして應神天皇十四年に百濟の民を率ひて歸化し、大和國に住し、其孫酒公雄略天皇の御宇上奏して、呉國より工女呉媛、弟媛を招き秦氏の族を率ひ蠶を

養ひ、絹布を織りて之を朝廷に献じ、積む事山の如し、天皇之を賞し宇豆麻佐の姓を賜ふ、蓋し絹布をうづ高く積みし義なり。

嵯峨驛

京都より六哩三分

○廣澤池（ひろさはいけ）　太秦の西北にあり、池の周圍約十二丁、昔寛朝僧正の開鑿する所、古來觀月の勝地たり、又其西北數丁の所に大澤池あり、此は元嵯峨天皇離宮内にありしもの、又の名を庭湖と云ひ、これ亦觀月の名所たり。

○大覺寺（だいかくじ）　大澤池の西方にあり、眞言宗、往昔嵯峨天皇の離宮にして嵯峨御所と稱し、淳和天皇の時寺院になり、同天皇第二皇子恒寂法親王を以て開祖とす、後二百八十年を經て文永五年後嵯峨天皇、龜山天皇相次で當寺に御在住あり、弘安十一年後宇多天皇落飾して當寺入御、伽藍僧坊を新營して中興とならせ給ひ、又明

德三年南北朝講和の時、後龜山天皇神器を奉じて吉野行宮より當寺に入り給ひ、父子の禮を以て神器を後小松天皇に授けられ、爾來此寺代々法親王の住院になり、以て光格天皇御養子慈性法親王に至れり、境内松樹鬱茂して頗る風致に富み、峨嵯天皇嵯峨山上陵(さがてんのうさがやまのうへのみさゝぎ)此附近にあり、又文德天皇田邑陵(ふんとくてんのうたむらのみさゝぎ)、後宇多天皇蓮華峰寺陵(ごうたてんのうれんげじのみさゝぎ)、後龜山天皇嵯峨小倉陵(ごかめやまてんのうさがをぐらのみさゝぎ)同じく此近傍にあり。

○嵯峨釋迦堂(さがしやかだう)　大覺寺の西南嵯峨村の中にあり、淨土宗五臺山(ごだいさん)と號し清涼寺と云ふ、元嵯峨天皇の離宮境内にして、天皇の皇子、源融此所に山莊を造りて後之れを佛刹とかし、栖霞寺と號せしが、一條天皇の時僧奇然宋國より釋迦像を持參して此に安置してより後、合同して清涼寺と稱するに至れり、本堂の東にある阿彌陀堂を栖霞寺と云ふは即ち其故なり、此寺創建以來屢々回祿に罹り現存のものは元祿年間德川綱吉の再建せしものに係り、境内に嵯峨天皇の塔(さがてんのうのたふ)及び源

融の墓(みなもとのとほる)あり、古來松明の儀式と稱するものあり、今尙之を行へり。

○五大堂(ごだいだう)　清涼寺の南西にあり、五大尊を安置し、嵯峨天皇の弘法大師に勅して彫刻せしめたるものなりと云ふ。

○小倉山二尊院(をぐらやまにそんゐん)　清涼寺の西、紅葉の名所たる、小倉山(をぐらやま)の麓にあり天台、眞言、律、淨土の四宗を兼營す、嵯峨天皇の創立に係り、初め小倉山華臺寺と號したれども、本尊釋迦、阿彌陀の二尊を安置したるを以て、何時となくこれを二尊院と稱するに至れり、中興の祖は法然上人にして、寺中上人の畫像を安置す、境内頗る風景に富み、嵯峨(さが)、土御門(つちみかど)後嵯峨(ごさが)三帝の塔、法然上人の廟(ほうねんしやうにんのべう)角倉了意(すみのくらりやうい)其他の墳墓あり外に、山腹に藤原定家卿山莊の時雨亭(ふぢはらていかきやうのしぐれてい)の遺跡あり。

○常寂寺(じやうじやくじ)　二尊院の南にあり、日蓮宗、寛永年間日鎭上人の開基、寺内に

藤原定家郷の歌仙祠（ふぢはらていかきやうのかせんし）あり、小督局の名琴車琴と號するものを藏せり。

○往生院祇王寺（わうじやうゐんぎわうじ）　二尊院の北にあり、元淨土宗の尼寺なりしが、其後大覺寺に屬し眞言宗となりしも、年久しく廢頽せしを有志の人々これを惜み、明治三十五年再建せり、本尊阿彌陀佛を本堂に安じ、其左側に平清盛の木像を置き、右脇壇に祇女、佛御前、左脇壇に祇王、同母刀自四尼の木像を安ず、堂前に古石塔二基あり、祇王祇女の墳（ぎわうぎじよのはか）なりと云傳ふ。

○新田義貞首塚（につたよしさだくびづか）　祇王寺の傍にあり、義貞の籠姫勾當内侍、義貞が越前にて戰死の後、此地に隱れ薙髮して尼となり、義貞の塔を此所に建てしなりと、

○厭離庵（えんりあん）　二尊院の東二丁許、北側の籔中にあり、藤原定家山莊の舊趾にして、小倉百首は此所にて撰みしなり、庵の北に小古墳あり、定家墓（ていかのはか）と稱す、又爲家墓（ためいへはか）は庵の傍なる畑中にあり。

○小楠公首塚（しうなんこうくびづか）　厭離庵の東三丁にあり、高八尺許の石卵塔にして、楠正行の首級を葬り、其傍に足利義詮の墳墓（あしかがよしあきのふんぼ）あり、此所は元義詮香華所寶篋院のありし地にして、正行死後、寺僧正行に舊緣ありしを以て其首級をこゝに葬りしが義詮深く正行の精忠を感じ、已の死後遺骸を同境域に埋めん事を託して、遂に其塚畔に葬りしなりと云傳へらる。

○天龍寺（てんりうじ）　嵯峨渡月橋の北東側にあり、臨濟宗五山の一にして、此地元後嵯峨上皇仙宮を營み給ひ、龜山法皇これを離宮となし給ひし所なりしが、後醍醐天皇崩御の後これが追福の爲め、足利尊氏一寺を建立し、夢窓國師をして開基せしめたるに起れり、其後屢々兵燹に罹り、元治甲子の兵亂を合せ前後八回、峨山和尚これが再建を計りて、明治二十七年工を始め、三十三年に至りて本殿法堂落成して、巍然たる舊觀に復せり、本殿、桁行十四間、梁行八間ハ多寶殿と稱し、本尊釋迦牟尼

佛及び後醍醐天皇尊牌を安置し、方丈其後にあり、書院を集瑞軒と云ふ、元臨川寺の客殿なりしを、慶應二年現今の地に移して假法堂となし、明治三十一年修繕を加へて書院となせり、又選佛場一に雲居庵と號す、法堂の傍にあり、此所には文殊菩薩を安せり、境内廣き三萬七千三百餘坪、方丈後庭の林泉は、開山國師の意匠を凝し經營せしものにして、清池あり曹源池と稱し、池畔奇巖怪石參差として老檜古松交錯し、飛瀑あり龜尾龍(かめを)と云ふ、池中に小嶼を築く、辨天島と稱す、其風光の佳なる多く他に見るべからざる所たり。

○後嵯峨龜山兩御陵(ごさがかめやま)　天龍寺境内にあり、兆域合一にして周圍八十三間南面して相並び、後嵯峨天皇嵯峨殿法華堂陵、龜山天皇龜山殿法華堂陵と云ふ。

○臨川寺(りんせんじ)　天龍寺の西、渡月橋の畔にあり、禪宗十刹の一にして、初め龜山法皇の仙居なりしが、後醍醐天皇の皇子世良親王の別墅となし、親王薨去の後遺命に從ひ梵刹となし、夢窓國師を開祖とす、本堂に本尊彌勒佛を開山堂に夢窓國師の像を安置し、尚開山堂の下に石龕を設け、國師の遺骸を葬りあり。

○世良親王墓(せらしんのうはか)　臨川寺の本堂の後にあり、親王は太宰帥に任せられしより都督親王とも云ふ。

○鹿王院(ろくわうゐん)　臨川寺の東北にあり、足利義滿の創立にして、覺王山大福圓寶憧寺と云ふ、普明國師の開基に係り、又禪宗十刹の一なり、本尊蓮慶作釋迦佛を本堂に安じ、其後壇に開祖普明國師自作像を置けり。

○野々宮(のみや)　天龍寺の北一丁許、竹林中にあり、祭神天照太神、元齋の宮のありし跡にして、昔は齋宮の内親王三年の間此所に住ひて、潔祭し給ふ所にして、垂仁天皇の皇女倭姫命に始り、後鳥羽天皇の御宇隷子内親王に至るまでこれを繼續せしも、爾後兵亂の爲め廢絶に歸し、今其趾を存せるのみ。

○嵐山（あらしやま）　大堰川の南岸、下嵯峨村の地にあり、山水の秀麗あると、櫻楓の樹多く風致の勝れたるとに依り、其名世に著はる、渡月橋は其の前の川に架し、これを渡りて直に山麓に至るべし、橋の南詰を左に入る山腹に、眞言宗智福山法輪寺あり、虚空藏菩薩を安置しあり、詳きは嵐山電氣軌道嵐山停留所の部にあり。

○愛宕山（あたごさん）　葛野郡の西部、山城丹波兩國に跨る高山にして、一名白雲岳と云ふ、海拔九百四十三米突、山中五峰あり朝日、大鷲、高尾、鎌倉、龍上是れなり故に又五臺山の名あり、驛より西北約一里にして山麓清瀧に到り、更に清瀧より登る事、三十八丁にして頂上に達すと云ふ。

○愛宕神社（あたごじんしや）　愛宕山の頂上にあり、天應二年僧慶俊、洛北鷹ケ峰より遷座せし社にして、本社は火防の神と稱し、本宮には神稚産日神、塡山姫命、伊弉冊尊外二座を祀り、若宮には雷神、迦遇槌神、破无神を合祀す、別に太郎坊、飯綱

子守勝手、春日、八天狗、十二天等の社祠あり、山巓の眺望最も廣豁にして、城丹二州の山川都邑を双眸の中に收む、其壯觀名狀すべからず、山麓一の華表より山上鐵の華表まで、此間阪路五十丁と稱し、試峠、渡猿橋、樒ケ原等の名所あり、毎月二十三日緣日と稱し、京阪の市人これに參詣して、樒を得て歸り以て護符とせり。

○月輪寺（ぐわつりんじ）　愛宕山の南半腹にあり、一に鎌倉山と云ふ、慶俊法師の開基に係り、本尊千手觀音を安置し、曾て空海上人此地に來り禪宗を修し關白兼實其幽邃を愛し、閑居の地となせし事あり、山中に日暮の瀧及び空也瀧あり、其幽雅深邃なる、多く他に其比を見ずと云ふ。

○水尾山寺（みつのをやまでら）　愛宕山の南、丹波國境と接したる山間にあり、知恩院の末寺にして、山上に清和天皇の御陵あり、水尾山陵と云ふもの是れなり

龜岡驛

京都より十三哩五分

○龜岡町　丹波國南桑田郡の中央に位し、三丹地方より京都へ入るの要衝に當り、元龜山と稱せし地、戸數約二千、郡中第一の名邑なり。

○龜山城　驛の南三丁、舊松平氏の居せし所、今は全く頽廢に歸して、纔に其天守臺趾を存するのみ。

○保津川　驛の東方二丁、山城國大堰川の上流にして源を丹波國北桑田郡及び山城國愛宕郡の溪谷に發し、丹波船井郡に出で他流と合し、南桑田郡保津村に至り山城に入り、山峽相迫り、奇岩怪石起伏する間を奔流し、相觸れ相激し漬磚して下る、沿岸奇景頗る多く、保津村より下流嵐山に至る間舟楫相通ずるを以て、初夏新綠の頃、兩岸躑躅花燃ゆるが如く咲亂れたる折、殊更此の便を籍り此所に來り遊ぶもの多く、流域四里の間、船は矢よりも疾く下りて約一時間餘にして達す、所謂保津川下り是れなり、今峽間の奇勝を擧ぐれば大略左の如し、

女夫石、くゞり、岩烏帽子岩、鏡岩、傳兵衛岩、豆腐屋岩、葉たばこの廻り、押廻し、獅子ケ口、象ケ鼻、半兵衛ケ淵、大つな打、曲り淵、孫六大岩、蜂の巣、屏風岩、鵜瀨、石門關、書物岩、猿飛石、鷹の巣、蓮華岩、瀧門の瀧、蝙蝠岩、千鳥ケ淵、戸無瀨の瀧、一の堰。

○矢田神社　驛より南二十三丁、天岡山の麓にあり、境内楓樹多く、社後皷の瀧(のたき)の邊り、秋景頗る佳なり。

○穴穗寺　驛の西一里、曾我部村字穴太にあり、西國第二十一番の靈場にして、本尊聖觀音は佛師感世の作なり、本堂廣き方八間、内陣の裝飾頗る美麗を盡し、仁王門、二重塔、念佛堂等あり、いづれも其結構壯麗をきはめり。

園部驛

京都より二十二哩二分

○園部町　船井郡の南部、園部川の畔にあり、南は龜岡、西は篠山、北は福知山に通ずる要衝に當り、人口約二千五百、郡中の一名邑なり。

○園部城趾　驛より八丁、園部町の西北端にあり、元和五年の築造に係り今纔に外廓の一部を存せるのみ、これに隣り、園部公園あり、往時菅原道眞の邸趾ありと云傳ふ。

綾部驛

京都より四十八哩三分
大阪より七十九哩三分

○綾部町　伊鹿郡の西南部にあり、舊九鬼氏一萬九千五百石の治下にして、今は阪鶴、京都兩鐵道の連絡接合する所となり、此所より福知山へは西里丹後國舞鶴へは北里、鐵道の通ずるを以て交通便利、大に土地の繁盛を來せり、詳きは阪鶴鐵道沿線の部にあり。

嵐山電氣軌道

四條通停留所

○壬生寺　停留所の南、千本通佛光寺角にあり、眞言律宗、往昔は寶幢三昧院又は地藏院とも稱せしが、何時の頃よりか地名に依て此名を云ふに至れり、一條天皇正曆二年、江州三井寺の僧、快賢僧都の開基に係り、本尊地藏菩薩は定朝の作なり、世に壬生狂言と稱するは、當寺中興の祖、圓覺上人の創始せし大念佛會にして、毎年四月二十一日より十日間、其猿樂を催し、頗る古風異體のものなり。

西院停留所

○高山寺　停留所の附近にあり、六地藏廻りの一にして、本堂の前に冠石

あり其名高し。

蠶の社停留所

○木島神社（きしまじんしゃ）　停留所の北、京都より太秦に至る街道の傍らなる森林中にあり、祭神天照座御親神にして、一に蠶の宮とも云ふ、鎮座の年代詳かならず、古來御稜の名所にして元亂の名あり、夏時炎陽密樹に隔てらるゝ所、水清冽にして萬斛の涼味を生ず。

太子前停留所

○廣隆寺（くわうりうじ）　太秦村にあり、三論眞言宗にして聖德太子の創建し給ひし所、此寺は古建築物最も多く、本尊藥師如來を安置せる金堂は、文明年間の再建に係り、丈六阿彌陀如來を安せる講堂は、保元年間の再造にして、今七百三十餘年を經、又聖德太子三十三歳の像を安置せる太子堂一に上宮王院と稱するもの、當初の建築に

して、今に至るまで千二百九十餘年を經、又桂宮院一に八角堂と稱する堂宇は、推古天皇十二年太子初じめて此地に宮殿を起し、楓野別宮と稱し、後改めて寺となせしもの、今尚當初の儘存在して千三百餘年の久しき星霜を經たるもの、これ實に平安第一の古堂たるものとす、京都鐵道花園驛の部を參照すべし。

○大酒神社（おほさけじんしゃ）　同じく太秦村にあり、此地の產土神にして、秦弓月王、秦酒公、漢織女、呉織女を祀る、京都鐵道花園驛の部を參照すべし。

嵯峨野停留所

○梅宮神社（うめみやじんしゃ）　桂川の東岸、西梅津村にあり、官幣中社、酒解、大若子、小若子、酒解子の四神を祀り、又橘氏の祖廟あり、傳へ云ふ昔嵯峨天皇の后、檀林皇后子なきを憂ひ、酒解の神に祈願して仁明天皇を降誕せ給ひしと、故に今も婦女の

祈願を籠むるもの少からず、境内の泉池は、燕子花の名所として、能く人の知る所なり。

○長福寺（ちやうふくじ）　梅宮神社の南にあり、仁安三年眞理尼の創建に係り、當時眞言宗を奉じたりしが、後曆應二年、元僧月林これを再興して禪宗十刹の中へ加はり、現時に傳はれり。

○松尾神社（まつをじんじや）　梅津の向岸、松尾村にあり、官幣大社、大山咋、市杵島姫の二神を祀る、大寶元年の創立にして、和銅二年加茂より遷座せしものなりと傳ふ、社地、山に倚りて老松古杉森々として生茂り、朱華表、檜皮葺の樓門を過ぎ本社に達し、社頭櫻楓柯を交へ、春秋の景勝言ふべからず、此社古來造酒の神として、醸造家の參詣するもの殊に多し、社の南二丁に月讀社あり、松尾七社の一にして高皇産靈神、月讀命の二座を祀り、古來疫癘除の神として信仰せらる。

○西芳寺（さいはうじ）　月讀社の南にあり、禪宗臨濟派、天龍寺末なり、天平年中行基の開創せし四十九精舍の一にして、初め西方寺と書し弘法大師在住ありしが、其後頽廢に歸し、歴應二年夢窓國師これを再興し、改めて西芳寺とあし、聖德太子作、阿彌陀如來を本尊として本堂に安せり、境内閑靜、湘南亭、潭北軒等の古建物あり。

○桂離宮（かつらりきう）　梅津の西南、桂川の右岸にあり、地は下桂村に屬す、豊臣秀吉智仁親王の爲め造營せしものに係り、林泉書院は小堀遠州の設計にあり、其結構壯麗人目を驚かすものあり、明治十六年改めて此所を桂離宮と稱せらるゝに至れり。

○久遠寺（くおんじ）　下桂村の西、川島村にあり、本派本願寺の別院にして、桂御坊又は川島御坊と稱し、俗に西山御坊とも云ふ、元桓武天皇の勅願に依り、傳教大師の創立する所にして、爾後久しく頽廢に歸したりしを、正和三年親鸞上人の外孫覺如上人これを復興して改宗せしなり、今域内に同上人の墳墓あり。

車折神社裏停留所

○車折神社（くるまさき）　停留所の傍にあり、高倉天皇侍讀清原頼業を祀る、後嵯峨天皇の時、牛車に乗り此所を過ぎるものあり、其牛忽ち倒れ、車折れしかば、車折明神の名を賜ふと云ふ、社前櫻樹多きは頼業のこれを愛せしに依る。

嵯峨驛前停留所

○上嵯峨村（かみさが）　京都市の西約三里、葛野郡の中央大堰川の北岸にあり、古來風景に富みたる地なるを以て聞へ、附近に名勝古蹟頗る多し、京都鐵道嵯峨驛の部を参照すべし。

嵐山停留所

○嵐山（あらし）　大堰川の南岸、下嵯峨村の地にあり、峯はさして高からざれども、古來山水の秀絶なると、櫻楓の勝れたるとに依り、其名天下に普く、今故に其景勝を云ふも愚なり『嵐山霞の奥はいざ知らず見ゆる限りは櫻なりけり』の一首に依りて、明かに其光景の凡ならざるを知るに足るべし、其大堰川の山麓を繞りて、其流の稍廣濶となれる所、一道の大橋を架すこれぞ云ふまでもなき渡月橋かり、岸頭數戸の茶亭、割烹店を設く、春花秋葉其邊凄じき人の押寄せ來りて、其雜沓名狀すべからざるものあり、此山の櫻樹は、昔龜山天皇の時、勅して大和吉野山より移植せしめられし事は已に人の知る所たり、大悲閣（だいひ）は橋の上流十餘丁山上にあり、**千光寺**（せんくわうじ）と稱し、千手觀音を安置す、風光最も好き地たり。

◎嵯峨虚空藏（さがこくぞう）　渡月橋の南詰を左に入る山腹にあり、眞言宗、智福山法輪寺と云ふ、和銅六年元明天皇の勅願に依り、僧行基の開基する所、其後一旦頽廢せしが、天長六年僧道昌、師弘法大師の旨を受けてこれを再興し、虚空藏菩薩の像を刻して更に本尊となし、これ日本三虚空藏の隨一となす、此寺其後應仁の兵燹に罹り燒失せしも、又再建し慶長二年後陽成天皇智福山の號を賜ふ、元治元年又兵燹に罹りしが、明治十五年これを再建す、世俗十三詣りと稱へ、男女十三歳に及べば例年四月中旬此所に賽して智福滿を祈ると云ふ。

關西本線

所要時間　方面

○嵯峨虚空藏（さがこくぞう）

渡月橋の南詰を左に入る山腹にあり、眞言宗、智福山法輪寺と云ふ、和銅六年元明天皇の勅願に依り、僧行基の開基する所、其後一旦頽廢せしが、天長六年僧道昌、師弘法大師の旨を受けてこれを再興し、虚空藏菩薩の像を刻して更に本尊となし、これ日本三虚空藏の隨一となす、此寺其後應仁の兵燹に罹り焼失せしも、又再建し慶長二年後陽成天皇智福山の號を賜ふ、元治元年又兵燹に罹りしが、明治十五年これを再建す、世俗十三詣りと稱へ、男女十三歳に及べば例年四月中旬此所に賽して智福滿を祈ると云ふ。

關西本線

附伊勢一方面

關西本線目次

一　港町停車場……一
一　天王寺公園……勝軍寺……六
二　大念佛寺……願證寺……六
二　杭全神社……柏原町……六
二　田村堂……達磨寺……六
三　法樂寺……信貴山毘沙門天……七
三　楯原神社……龍田神社……七
三　八尾町……龍田新宮……七
三　若江神社……因幡舊趾……八
四　玉祖神社……龍田川……八
四　恩地神社……生駒山聖天……八
四　澁川神社……法隆寺……九
四　許麻神社……中宮寺……九
四　常光寺……廣瀨神社……一〇
五　大信寺……法輪寺……一〇
五　八尾天滿宮……法起寺……一二
五　木村重成の墓……五
六　郡山町……一
六　藥園八幡神社……三
六　植槻神社……三
六　郡山城趾……三
六　松尾寺……三
七　矢田寺……三
七　東明寺……三
七　矢田神社……三
七　盛山寺……三
七　王龍寺……三
八　秋篠寺……三
八　西大寺……四
九　菅原神社……四
一〇　菅原寺……四
一〇　唐招提寺……五
一二　藥師寺……五
一六　安康天皇御陵……六

成務天皇御陵……一六
大極殿址……一六
奈良市……一七
開化天皇御陵……一七
子守の社……一八
猿澤の池……一八
興福寺……一八
西金堂……一九
南圓堂……一九
三重の塔……一九
北圓堂……二〇
東金堂……二〇
五層塔……二〇
東室……二〇
大湯屋……二一
菩提院……二一
八重櫻……二一
春日野……二一
浅茅ヶ原……二一
奈良帝室博物館……二一
奈良物産陳列所……二一
春日神社……二一
春日若宮……二一
春日山……二一
三笠山……二一
蝙蝠窟……二二
本宮神社……二二
嫩草山……二二
水谷神社……二二
手向山神社……二二
東大寺……二二
大佛殿……二三
大佛鐘樓……二三
念佛堂……二三
行基堂……二三
淨土堂……二三
三月堂……二六
二月堂……二七
開山堂……二七
三昧堂……二七
眞言院……二七
東南院……二八
南大門……二八
戒壇堂……二八
勤學院……二九
正倉院……二九
轉害門……二九
佐保川……三〇
北山十八間戸……三〇
般若寺……三〇
元明天皇御陵……三一
元正天皇御陵……三一
聖武天皇御陵……三一
極樂院……三一

元興寺……三三
新藥師寺……三三
白毫寺……三三
興福院……三三
不退寺……三三
法華寺……三三
海龍王寺……三四
圓成寺……三四
光仁天皇御陵……三四
木津町……三五
市の阪……三五
晋願寺……三五
哀堂……三五
重衡首洗池……三五
大智寺……三五
國分寺址……三六
海修山寺……三七
淨瑠璃寺……三七
笠置山……三七
笠置寺……三八
後醍醐天皇皇居址……三八
金胎寺……三八
笠置溫泉……三八
大智寺……三九
明神大瀧……三九
有市鑛泉……四〇
月ヶ瀨……四〇
正月堂……四一
上野……四一
菅原神社……四一
上野公園……四二
鍵屋の辻……四二
岩倉峽……四二
赤目四十八瀧……四三
龜山町……四四
龜山城址……四五
能褒野神社……四五
津市……四五
津觀音寺……四六
公園……四六
結城神社……四六
阿濃津公園……四七
阿濃津浦……四七
松阪公園……四七
宇治山田市……四八
伊勢大神宮……四八
外宮……四九
外宮の神苑……四九
天岩戸……五〇
宮崎文庫……五〇
義世寺……五〇
古市遊廓……五一
聞山……五一
林崎文庫……五一
宇治橋……五一
內宮……五二
內宮神苑……五二
二見浦……五二
朝熊山……五二

關西本線

湊町驛

○湊町停車場（みなとまちてーしよん）　大阪市の南方、道頓堀西横堀の南突當りにあり、鐵道關西線の起點にして王子、奈良、龜山を經て名古屋へ達す、其途中三四の驛に於て和歌山、櫻井、京都、草津、山田等の各線へも連絡し得べき便宜あるを以て此線殊に旅客の往來繁く、隨て貨物の出入も多く、本市附近に於ける梅田に亞いて大驛と云ふべし。

天王寺驛

湊町より二哩三分

○天王寺公園（てんのうじこうえん）　驛の西方にあり、元第五回内國勸業博覽會々場跡にし

て、壯麗なる庭園と各種遊戯場運動場を設けあり、四天王寺の伽藍、茶臼山の名蹟等皆此附近にあり、詳きは、大阪市の部にあり。

平野驛

淡町より　哩

驛より二丁、東成郡平野郷町にあり、融通念佛宗の總本山にして天得如來を本尊とし、天治二年良忍上人これを開基し、嘉元年中法門上人これを中興せり、寺域廣濶、堂宇壯大曾て附近に稀れなる巨刹なりしが、明治三十一年火を失し堂宇悉く灰燼に歸し、今再建計畫中に屬せり。

○**抗全神社**　平野郷町字泥堂にあり、俗に熊野三所權現（くまのさんし）と稱す、郷社、貞觀四年の創建に係り、今素盞嗚尊を祀る、華表の額は後醍醐天皇の靈筆なりと云傳へり。

○**田村堂**　同町字西脇ある長寶寺（ちやうじ）の境内にあり、寺は坂上田村麿の息女にして、桓武天皇の皇后なる慈心大姉の開基に係り、即ち堂内に田村將軍の像を安置あり、又寺の北方に田村家代々の邸地あり。

○**法樂寺**　驛の西、田邊村字南田邊にあり、京都泉涌寺に屬す、治承年中平重盛の創始に係り、本尊觀世音は源頼朝の持佛なりと云傳ふ、門前に大門池あり、昔時の大門趾ありと云ふ。

○**楯原神社**　驛の南方、喜連村字西喜連にあり、式内神社の一にして、武甕槌命を祀る今附近の産土神なり。

八尾驛

淡町より七哩四分

○**八尾町**　河内國中河内郡の南にあり、奈良街道の要衝に當り、人口六千を有する大邑なり、此附近大阪役の古戰場にして、今尚其遺跡の存するもの多し。

○**若江神社**　八尾町の北若江村字南村にあり、延喜式の社祠にして、大雷

火明神を祀り、雷神石あり、境内の森林を雷の森と稱せり。

○**玉祖神社**（たまおやじんしや）　北高安村字神立の東にあり、高安明神と稱す、祭神、玉造氏の祖神、和銅三年の創建に係り、境内高燥、樹木鬱然今郷社たり。

○**恩地神社**（おんちじんしや）　南高安村字恩地にあり、式内神社の一にして、大御食津比古命、大御食津比咩命を祀り、社殿山腹に倚り、幽靜閑雅眺望に富みたる所なり。

○**澁川神社**（しぶかはじんしや）　八尾町の南、龍華村字植松にあり、郷社、俗に澁川天神と云ふ、式内神社の一にして天忍穗耳命、饒速日命を祀り、生今此地方の總鎭守として一般の崇敬厚し。

○**許麻神社**（こまじんしや）　八尾町の西方、久寶寺村にあり、俗に午頭天王と云ふ、此地往古高麗國人の居住せし所にして、其祖神を祀れるならんと云へり。

○**常光寺**（じやうくわうじ）　八尾町字西郷にあり、禪宗、天平年間僧行基の開基に係り、小

野篁作、地藏菩薩の本尊とす、此寺寛治二年白河法皇熊野行幸の際、駕を廻らされ舍利佛を寄附し給ふと云ふ、元和の役、此地戰場となりし爲め、堂宇大に毀損せられ、今纔に本堂、舍利堂、閻魔堂を殘すに過ぎず、當時戰沒せし藤堂家軍兵七十士の墓（とうだうけぐんへいしのはか）あり。

○**大信寺**（だいしじ）　八尾町の內字寺內にあり、眞宗、一に八尾御堂と稱す、眞宗大谷派にして慶長十二年敎如上人の建立に係る、本堂には聖德太子作、阿彌陀佛を安置し、別に親鸞上人の影像を掲ぐ、境內に成恩庵あり、又寺の隣地に**八尾天滿宮**（やをてんまん）あり、天滿宮は慶長十二年片桐且元の造營する所たり。

○**木村重成の墓**（きむらしげなりはか）　八尾町の北方、西郡村の內にあり、元和の役、眞田、後藤、木村等の徒が寡を以て東軍に當り奮戰せし所にして即ち此地は木村重成の戰死せし所たり、俗に**無念塚**（むねんづか）と稱し、其碑石今に傳はれり。

○勝軍寺（しようぐんじ）　久寶寺村字太子堂にあり、用明天皇二年聖德太子の創建と云傳へらるれども、或は班鳩寺火災の當時、河内の高井寺を造ると云ふもの此寺ならんと云ふ説あり、古昔は建築壯麗なりしも今大に衰頽せり。

○顯證寺（けんしようじ）　久寶寺村にあり眞宗、文明十一年僧兼壽の創建に係り、曾て本願寺連枝の住房たりき、堂宇宏壯、附近有數の名刹なり。

柏原驛

淡町より十哩一分

○柏原町（かしはら）　中河内郡の東南、大和川の北岸にあり、河南鐵道の起點にして人口約二千五百を有し郡中の名邑なり。

王子驛

淡町より十六哩

○達磨寺（だるまでら）　驛の南方八丁、北葛城郡王子村にあり、聖德太子の創建に係り、達磨を本尊としたるものなり、後此寺大に頽廢したるを解脫上人再興して眞言宗に屬せり、名所朝の原（あさはら）は此邊にして、昔時の大伽藍放光寺（ほうくわうじ）は又此附近にありき。

○信貴山毘沙門天（しきさんびしやもんてん）　驛より西山路一里、生駒郡明治村字信貴畑なる大和河内を國境に峙てる信貴山の山頂にあり、寺號を朝護國孫子寺（てうごくそんしじ）と云ふ、俗傳に聖德太子此上に登りて生身の毘沙門天を拜し、後此堂を建てたりと云へり、延喜年中法隆寺の僧、明蓮上人之を再興し今の堂宇は慶長年間、豊臣氏の再建せる所なりと、本堂には舞臺ありて眺矚甚だ佳なり。

○龍田神社（たつたじ）　三郷村字立野にあり、官幣大社、天御柱命、國御柱命の二神を祀る、社地一萬二千五十坪、正殿二宇、攝社五あり又此社の東方、龍田町字龍田に同じ龍田神社（たつたじんしや）あり祭神龍田比女神、龍田比女神を古く龍田新宮（たつたしんぐう）と稱せしに對し此社を龍田の本宮とも云へり。

○因幡宮址（いなば）、驛の東方稻葉車潮にあり、之れ稱德天皇の宮址にして、天平神護元年天皇弓削の行宮より還幸あり駕を此地に駐められし所なり。

○龍田川（たつた）、龍田町の西端を南に流れ大和川に入る、古來紅葉の勝地として名高き所なれども、其風景は今は寧ろ平凡なり、唯纔に龍田橋の架したる邊楓樹稍多きを以て秋季錦を綴る頃には遠近來觀者頗る多し。

○生駒山聖天（いこまやまでん）驛より北二里半、信貴山の北に連なる生駒山の東山腹にあり、寺號を寶山寺と云ひ、福德の神なりと稱し、信仰を籠むるもの多し、詳きは關西櫻の宮線住道驛の部にあり。

法隆寺驛

淡町より十八哩二分

○法隆寺（ほうりつじ）驛の北方八丁、法隆寺村字法隆寺にあり、法相宗の大本山にして且南都七大寺の一なり、此附近一帶の地は古への所謂**斑鳩の里**（いかるが）なれば又の名を**班鳩寺**（いかるがでら）とも稱す、初め聖德太子用明天皇の勅に依て、新堂を創建し、其後推古天皇元年より十五年に渡りて增築せられたる大伽藍なり、古昔の寺院中或は既に荒廢せしもあり、或は火災に罹りて當時の狀態を失へるものあれども、獨り此伽藍のみは創建當時のもの境內二萬八千四百餘坪の內に依然として現存し其歷史美術の材料豐富なる點に於し蓋し當寺の各に出るものなし、從て特別保護建造物及び國寶の數頗る多くして建造物は二十一棟、國寶は百十九點の多きに及べり、建物の中其最も主なるものを金堂、中門、五重塔とす即ち中門は南大門の中にありて一に仁王門と稱し、樓上に孝謙天皇の供養せられしと稱する百萬塔を藏し、仁王の像は止利佛師の作と稱せり、金堂は中門の中にあり、頗る偉大、壯麗なる建物にして桁行九間二尺、梁行七間四尺餘、內部の四壁悉く畫くに四佛淨土の圖を以てし、中に本尊釋迦如來の座像と脇士藥王藥上菩薩、藥師如來の像を安置し、いづれも當代の精美

を盡したる傑作なるが上にも當堂内に納めある王蟲厨子は木造にして高七尺八寸、四方に密陀僧の經説を圖し、唐革透彫の金具を附し、其下に金花虫の羽を敷詰めたるもの、今其美術品中最も卓越せるものとす、五重の塔も亦中門の中にあり、高二十五間、方五間塔内四面に泥塑の佛像、人物、山水等の形を安ず、皆古代の製作に係り其他講堂夢殿の建築に意に用ひたる、内部に安置せる佛像の彫刻に精を極めたるもの、一々枚擧に遑あらず。

○中宮寺（ちうぐうじ）　法隆寺の東北にあり、眞言律宗、推古天皇十五年に聖德太子御母の爲めに創建し**班鳩尼寺**（いかるがあまでら）と稱せしなり、本尊彌勒菩薩を安置し、今の堂は天文年間の再建なり、寶物の天壽國曼荼羅勅繡の掛幅は本邦最古の織物なり。

○廣瀨神社（ひろせじんしや）　驛の南方二十丁、北葛城郡河合村にあり、官幣大社、天武天皇白鳳四年の創建に係り豐宇氣姫を祀り、正殿の外に假殿、神饌所、勅使殿、神庫

繪馬堂等あり。

○法輪寺（ほふりんじ）　法隆寺の北富郷村字三井にあり古義眞言宗、推古天皇二十一年聖德太子の創建になり御子山背大兄王に至て完成せり、本尊藥師如來の座像を安せり南門外に大兄王の御墓（おほえのわうのおんはか）あり、北岡墓と稱せり。

○法起寺（ほふきじ）　法輪寺の東北八丁に位し、富郷村字岡本にあり、法相宗、聖德太子岡本宮の舊趾にして、推古天皇の創立し給へる寺院なり、中世屢々災厄に遇ひ今は特別保護建造物として三重塔を存す、其他は延寶年間の再建にかゝれりと云ふ。

郡山驛

湊町より二十二哩六分

○郡山町（こおりやまちやう）　生駒郡の東端にあり、國中第一の都會にして舊柳澤氏の城下たり、人口約一萬四千を、有し綿糸綿布の製産地を以て其名特に著はる。

○藥園八幡神社（やくゑんはちまんじんしや）　郡山町の内材木町にあり、祭神應神天皇、神功皇后

にして初め町の北方にありしが後此處に移せり、蓋し舊地は往昔藥園宮（やくをんのみや）の跡にして天平勝寶元年大嘗會を行はれ其翌年群臣を饗せられたるの地なり。

○植槻神社（うゑつきじんしゃ）　郡山町にあり、貞觀元年宇佐八幡を山城男山に勸請の時又此地に其分靈を祀りたるものなり。

○郡山城址（こほりやまじやうし）　足利氏の末、小田内官内の築く所にして後、豊臣秀吉の弟秀長これに居り其後屢々沿革ありて亨保九年以後柳澤氏の封邑とある、地域風景に富み其本丸址に今柳澤神社（やなぎさはじんしゃ）を建て舊藩主の祖、柳澤吉保の靈を祀れり。

○松尾寺（まつをでら）　郡山町の西、矢田村字山田の松尾山の半腹にあり、眞言宗、普陀落山と號し養老二年舍人親王の御願に依り僧永業の創立する所、本堂は、舍人親王作、觀音像を安じ大黑堂には空海作、大黑天を安置せり、土地高燥、東方大和平原を一眸に瞰め得らるべし。

○矢田寺（やだでら）　松尾寺の北十八丁、矢田村字矢田にあり眞言宗金剛山寺と稱す、天武天皇の御願にして僧智通の開基に係る、金堂に地藏尊を安置し、尚他に滿米上人及び小野篁像を置けり、寺域八千五百餘坪、雅趣に富めり、是より北八丁に東明寺（とうめいじ）あり之れ又眞言宗にして舍人親王の創建に係る、又矢田村字横山に矢田神社（やだじんしゃ）あり、饒速日命、御炊屋媛を祀り延喜式に列せられたる社祠なり。

○靈山寺（れいざんじ）　富雄村字中村にあり眞言宗、鼻高山と號し天平勝寶中行基遷邦二僧正の開基に係り藥師如來を本尊とす、此寺の北五十丁に王龍寺（わうりうじ）あり、聖武天皇の草建にして堂内に巨石あり、其高二丈五尺、面に十一面觀音を彫りて本尊とす建武内子三年の銘あり。

○秋篠寺（あきしのでら）　郡山町の北、平城村字秋篠にあり淨土宗、寶龜十一年善珠法師の開基に係り初め法相宗を奉じ中世眞言に變じ、醍醐の三寶院に屬せしが、今又改